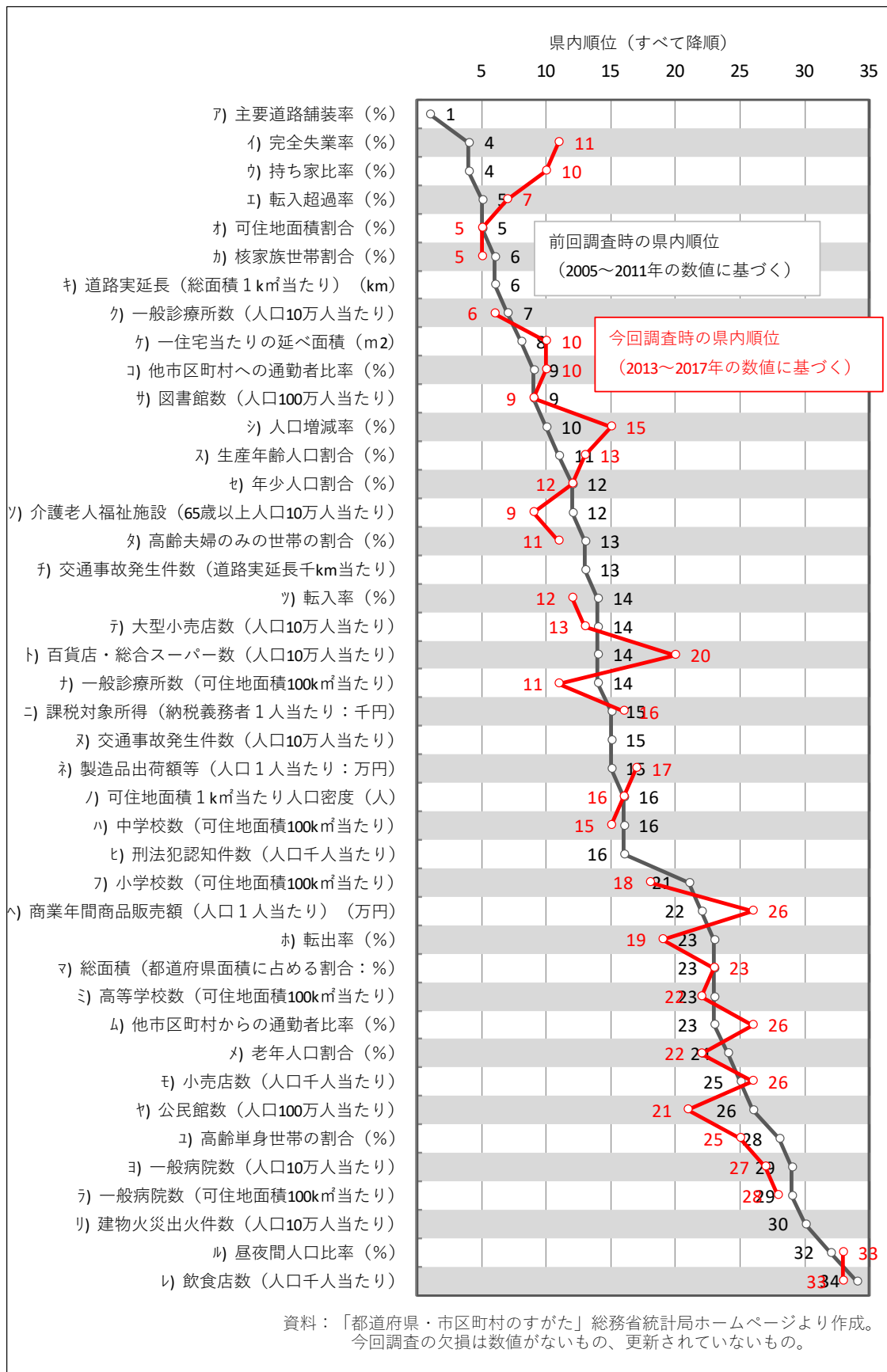


データ等からみる亙理町の現状

内 容	
1. 各種指標にみる亙理町の県内の位置	2
2. 亙理町の現状	5
(1) 自然条件	5
① 位置・地勢	5
② 気象	6
(2) 社会経済構造	7
① 人口・世帯	7
② 年齢別人口	8
③ 人口動態	9
④ 地区別人口	10
⑤ 世帯の家族類型	11
⑥ 就業構造	12
⑦ 経済活動	15
⑧ 農業	16
⑨ 水産業	17
⑩ 工業	19
⑪ 商業	20
⑫ 観光	21
3. 町民生活	22
① 教育	22
② 都市基盤	22
③ 医療・保健	22
④ 福祉	22
⑤ 安全	23
⑥ 町民活動等	23
4. 土地利用・都市基盤	25
① 土地利用規制	25
② 土地利用	28
③ 地価	30
④ 土地需要・建設動向	31
⑤ 低未利用地の状況	33
⑥ 道路・交通	34

1. 各種指標にみる亙理町の県内の位置

■各種指標にみる亙理町の県内順位



【近年の状況】

- 平成 22 年～27 年(2010～2015 年)の人口増減率は▲3.6%であり、県内順位は前回調査の 10 位から 15 位に後退している。ただし、高齢化を示す「メ 老年人口割合」「タ 高齢夫婦のみの世帯の割合」「ユ 高齢単身世帯の割合」は県内順位を下げている、県内においては比較的高齢化が低い水準を維持している。
- 平成 27 年(2015 年)の社会動態をみると、転入(3.5%)が転出(3.1%)を上回り、社会増加率は 0.4%のプラス、県内 7 位となっている。
- 人口1人当たりの製造品出荷額等、商業年間商品販売額は各々 15 位から 17 位、22 位から 26 位と順位を下げている、工業・商業面の機能は低いままである。また、人口千万人当たりの小売店数、飲食店数は各々 25 位から 26 位、34 位から 33 位と低い順位のままで、商業集積の少なさは変化していない。
- 他市区町村への通勤者比率は 9 位から 10 位、他市区町村からの通勤者比率は 23 位から 26 位、昼夜間人口比率は 32 位から 33 位となっており、流出超過傾向が続いている(ベットタウンの傾向が強い)。
- 完全失業率は 9.5%から 5.4%、県内順位は 4 位から 11 位と改善された。また、課税対象所得は 15 位から 16 位とほとんど変わらない(産業面の弱さは変化なし)。
- 大きく(5 以上)順位を下げた項目は「ウ 持ち家比率」のみで、百貨店・総合スーパーや一般病院などの高次都市機能は仙台市や周辺地域に依存している状況が変わっていない。
- 逆に大きく(5 以上)順位を上げた項目は「モ 公民館数(人口 100 万人当たり)」である。また、「ソ 介護老人福祉施設(65 歳以上人口 10 万人当たり)」「ナ 一般診療所数(可住地面積 100 km²当たり)」などは 3 つ順位を上げており、県内における身近な医療、福祉施設環境の向上の傾向がみられる。

【参考：前回策定時の記載内容】

① 土地（グラフ中「オ、マ、ノ」参照）

- 亶理町が宮城県に占める面積の割合は 1.0%と低いが、町内の可住地面積割合は 83.6%、県内 5 位と高い水準にある。
- 一方、可住地人口密度は 5.7 人/ha、県内 16 位と中位に位置している。すなわち、県内の相対的地位からいえば、亶理町にはまだまだ住宅地として利用できる土地が多く残されているといえる。

② 人口・世帯（グラフ中「シ、ス、セ、メ、カ、タ、ユ、エ、ツ、ホ」参照）

- 2005～2010 年の人口増加率は▲0.82%とわずかに減少しているが、県内 10 位に位置しており、著しく人口が減少しているという状況ではない。年少人口割合は 13.4%・11 位、生産年齢人口割合は 62.5%・12 位に位置する一方、老年人口割合は 23.2%・24 位となっており、県内では比較的高齢化が低い水準にあるといえる。
- 核家族世帯割合は 59.9%・6 位と高く、都市的な家族構成の世帯が多くなっている。高齢単身世帯の割合は 5.8%・28 位と低い水準となっており、高齢化の進展が比較的遅いという状況を裏付けているが、高齢夫婦のみの世帯の割合は 10.0%・13 位とやや高く、今後単身高齢者の福祉・介護問題の顕在化が懸念される。
- 2010 年の社会動態をみると、転入が転出を上回り、社会増加率は 0.13%のプラス、県内 5 位となっている。

③ 産業（グラフ中「ネ、ハ」参照）

- 人口1人当たりの製造品出荷額等、年間商品販売額は各々199.5万円／人・15位、126.2万円／人・22位となっており、工業・商業面の機能が高いとはいえない。

④ 労働（グラフ中「コ、ム、ル、イ、ニ」参照）

- 他市区町村への通勤者比率は56.2%・9位と高い一方、他市区町村からの通勤者比率は26.2%・23位と低い水準である。他市区町村からの通勤者比率が他市区町村への通勤者比率を下回るため、昼夜間人口比率は83.7%・32位と流出超過が大きく、ベッドタウンの傾向が強くなっている。
- 完全失業率は9.5%・4位と県内でも高い水準で、また、課税対象所得も2,529千円・15位で、産業面の弱さを反映した結果と考えられる。

⑥ 居住環境（グラフ中「テ、ト、モ、レ、ク、サ、リ、ヤ、ヨ、ア、キ、ウ、ケ」参照）

- 大型小売店数(人口10万人当たり)は14.2店・14位で、百貨店・総合スーパーはない。また、人口千万人当たりの小売店数、飲食店数は各々7.9店・25位、1.9店・34位とすべて低水準で、商業集積の少なさが指摘できる。
- 人口10万人当たりの一般診療所数は68.9施設・7位、人口100万人当たりの図書館数は28.5館・9位、65歳以上人口10万人当たりの介護老人福祉施設は24.8所・12位と比較的高い水準にある。また、公民館数は26位で、一般病院はなく、高次都市機能は仙台市や周辺地域に依存している状況といえる。
- 総面積1㎢当たり道路実延長は6.9km・6位にあり、主要道路舗装率は100%となっている。また、持ち家比率、一住宅当たりの延べ面積は各々86.6%・4位、137.3㎡・8位と高い水準にあり、居住地としての環境に優れているといえる。

2. 亶理町の現状

(1) 自然条件

① 位置・地勢

【参考：前回策定時の記載内容】

- 亶理町は、宮城県の南部、仙台市から南に約 26km の距離に位置し、西を阿武隈高地、東を太平洋の黒潮、北を阿武隈川に囲まれ、その中心部は肥沃な平野が広がっている。町の総面積は 73.21 km² で、海浜部には仙台湾海浜県自然環境保全地域がある。
- 温暖な気候と美しい自然環境が豊かな亶理町の農業をもたらし、また、それと関連して発展する林業、水産業、商業、工業なども亶理町の豊かな住民生活の基盤となっている。

■ 亶理町の位置



出典：亶理町ホームページ

② 気象

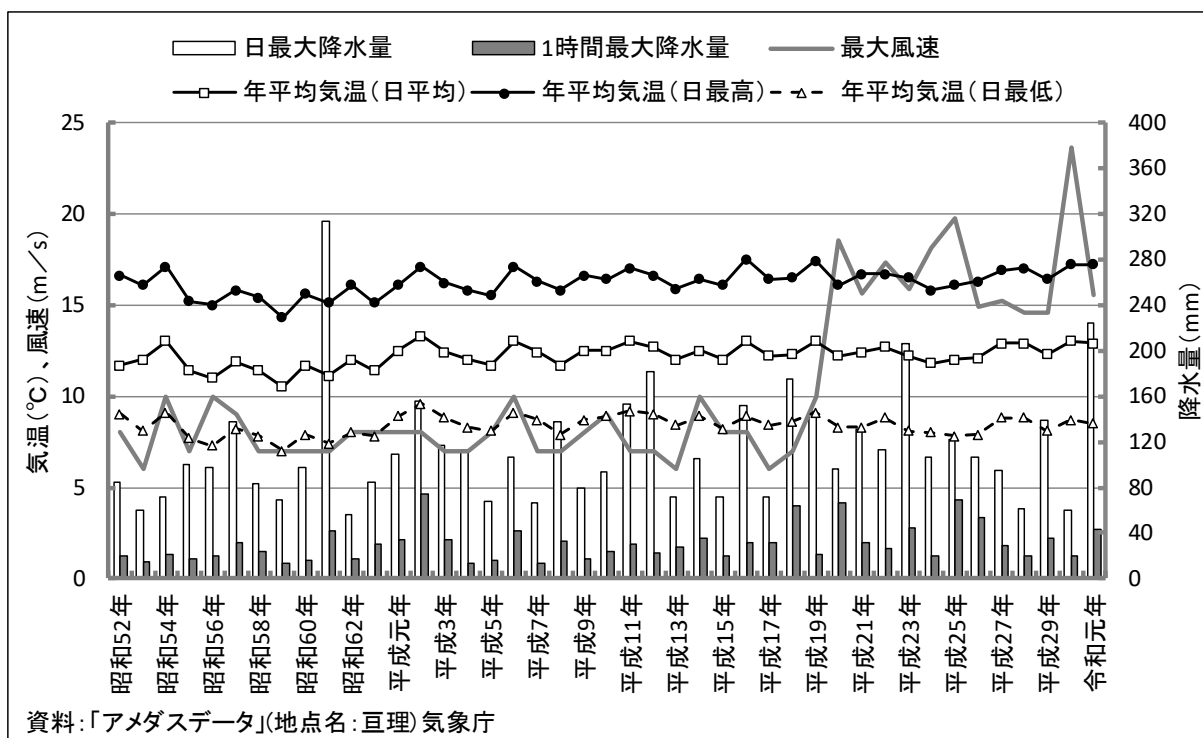
【近年の状況】

- 年平均気温等に大きな変動はみられないが、日最大降水量や最大風速については極端に大きな年が散見される。

【参考：前回策定時の記載内容】

- 過去30年の平均気温は約12℃、年間平均降水量は約1,270mmとなっている。冬期間の降雪も少なく年間を通じて過ごしやすい気象条件下にある。

■ 平均気温・最大降水量・最大風速の推移



(2) 社会経済構造

① 人口・世帯

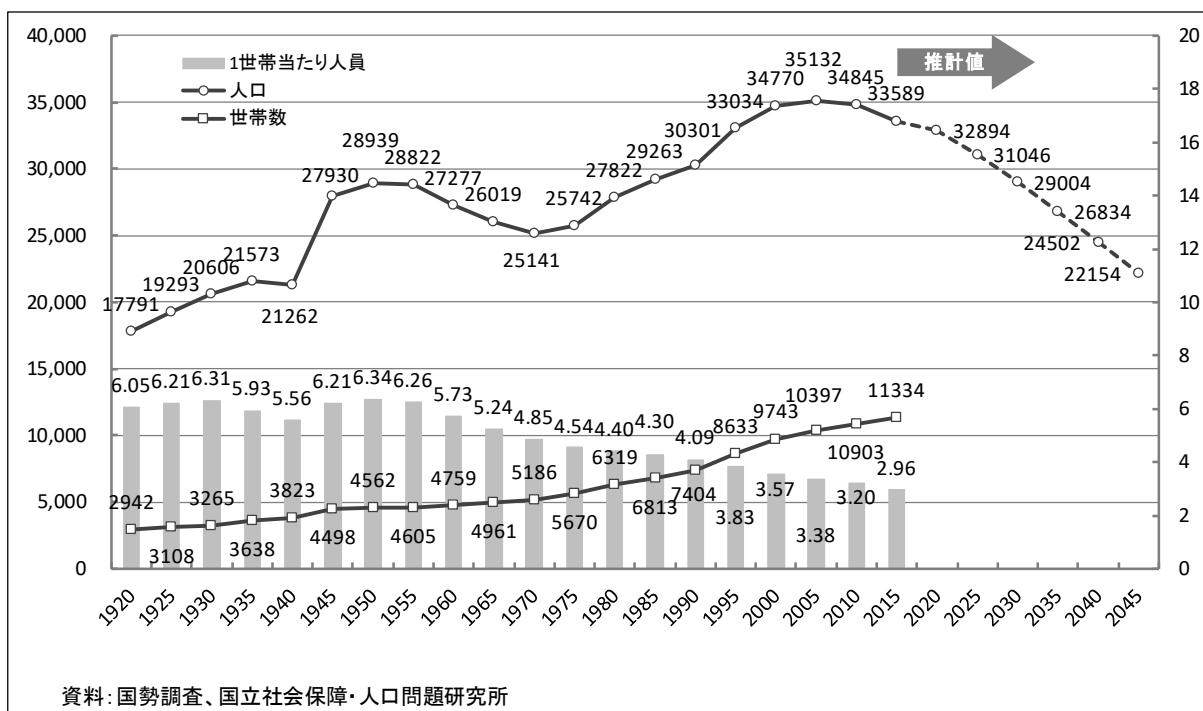
【近年の状況】

- 人口減少傾向が続き、平成 27 年(2015 年)の国勢調査で人口は 34,000 人を割り込んだ。今後も減少傾向が続くと見込まれている。
- 世帯数は増加を続け、1 世帯当たり人員は 3 人／世帯を下回った。

【参考：前回策定時の記載内容】

- 互理町の人口推移をみると、高度経済成長期に減少(大都市圏への人口移動)したものの、その後は増加傾向を維持していたが、平成 22 年で減少に転じている。一方、世帯数は増加を続けており、その結果 1 世帯当たり人員は減少し、平成 22 年時点で 3.2 人／世帯となっている(核家族化の進展や単身世帯の増加)。
- 将来人口の見通しを国立社会保障・人口問題研究所の推計値でみると、平成 32 年に一旦増加するものの長期的には減少を続け、平成 52 年には 27,095 人になると予測されている。同時期の推計値を封鎖人口でみると上記推計値を上回って推移しており、社会減が人口減少傾向に拍車をかけているといえる。

■人口・世帯の推移と将来推計



② 年齢別人口

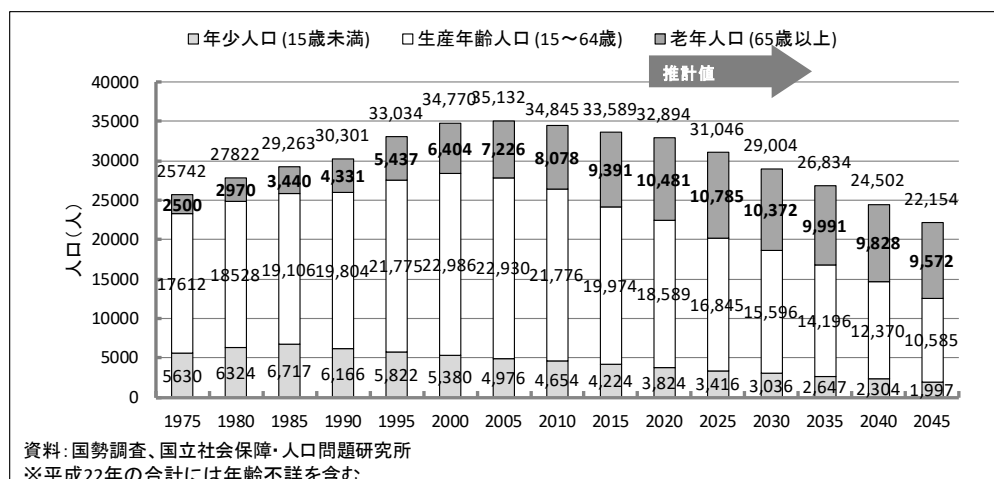
【近年の状況】

- 年少人口割合の低下傾向には歯止めがかかりつつあるが、老年人口割合は急激に拡大し、この傾向は今後も継続すると予測されている。
- 社人研によると、老年人口は令和7年(2025年)まで増加し続け、その割合は20年後の令和22年(2040年)には40%に達し、また、生産年齢人口は50%まで縮小すると推計されている。

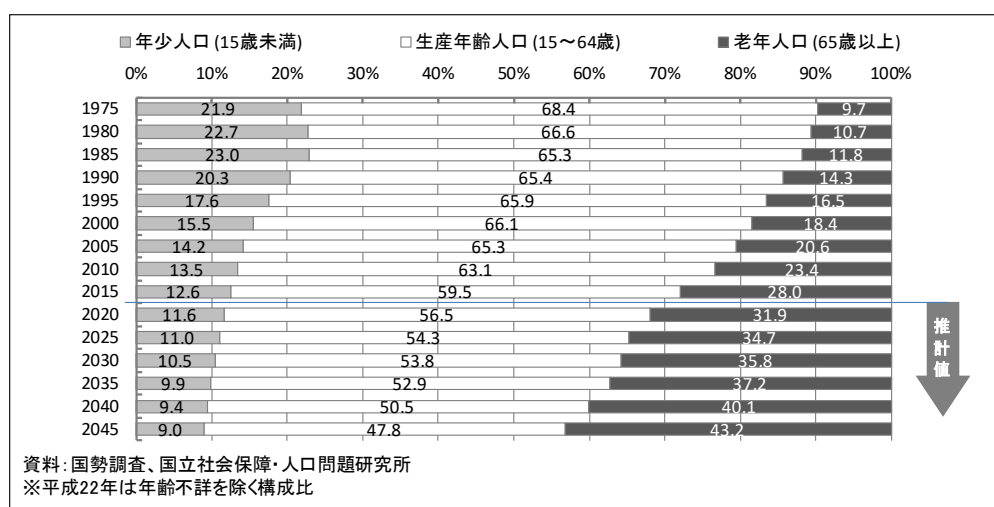
【参考：前回策定時の記載内容】

- 老年人口割合は一貫して上昇し、平成22年では23.4%に達している。これと同時に、年少人口割合、生産年齢人口割合は低下している。
- 国立社会保障・人口問題研究所の推計値でみると老年人口は急激に増加し、平成32年には10,000人を超えると予想されている。その後、老年人口の増加傾向は頭打ちになるが、生産年齢人口の減少が顕著となる。

■年齢3区分別人口の推移



■年齢3区分別人口構成比



③ 人口動態

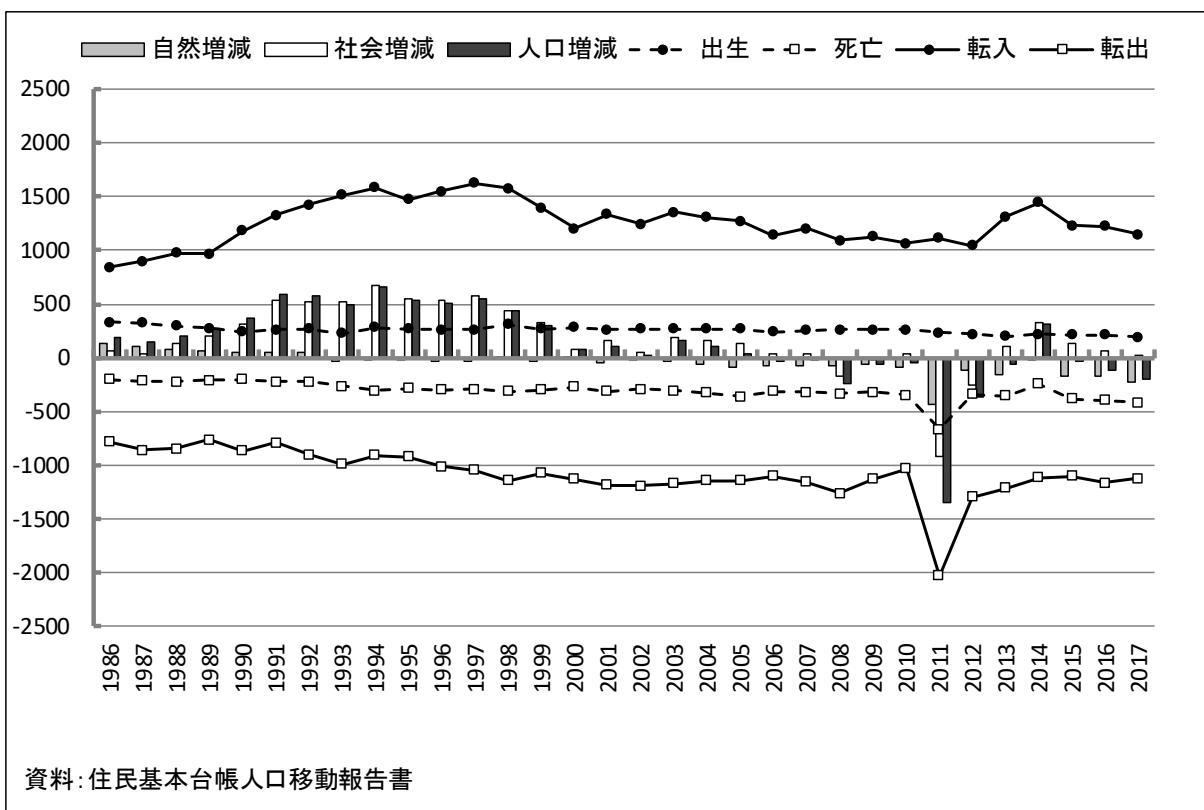
【近年の状況】

- 自然増減は震災以降も100人単位の減少が続く一方、社会増減は平成25年(2013年)以降は増加となっている。ただし、社会増が自然減を補うには至らない年が多く、平成26年(2014年)を除いて人口減である。

【参考：前回策定時の記載内容】

- 平成5年以降、若干プラスとなった年はあるものの、ほぼ死亡が出生を上回り、自然減が続いている。平成17年までは社会増がこれを補い、その結果、人口増減はプラスを続けてきたが、平成18年以降は人口減に転じている。
- 平成23年の大幅な減少は東日本大震災の影響である。

■人口動態



④ 地区別人口

【近年の状況】

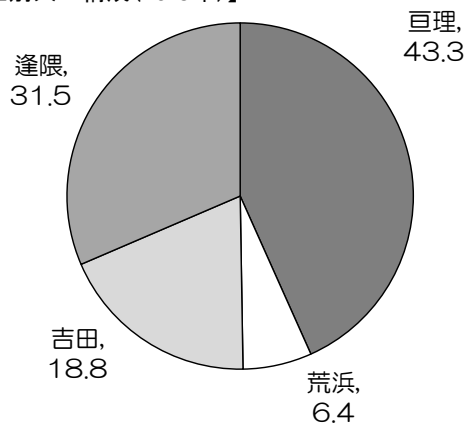
- 震災後急増した亘理地区の人口は減少傾向にあり、近年では逢隈地区の人口が増加傾向にある。吉田地区、荒浜地区の人口は震災後減少し、その後、吉田地区では微減、荒浜地区では大きな変動はない。

【参考：前回策定時の記載内容】

- 亘理地区が全体の45.4%を占め、逢隈地区28.9%、吉田地区19.4%、荒浜地区6.3%となっている。
- 震災の影響で吉田地区、荒浜地区の減少幅が大きいですが、近年、逢隈地区の微増に対し、吉田地区、荒浜地区は微減の傾向にある。

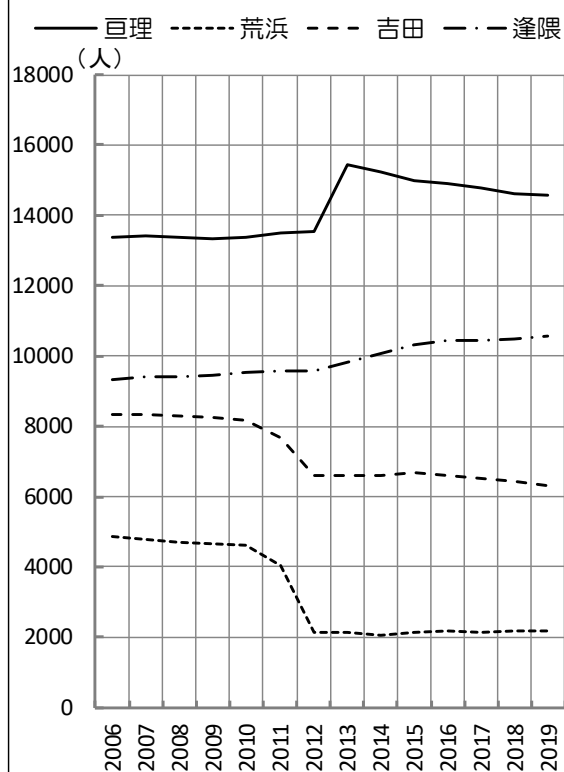
■ 地区別人口の状況

【地区別人口構成(2019年)】



資料：住民基本台帳(各年4月30日) 右グラフも同様

【地区別人口の推移】



⑤ 世帯の家族類型

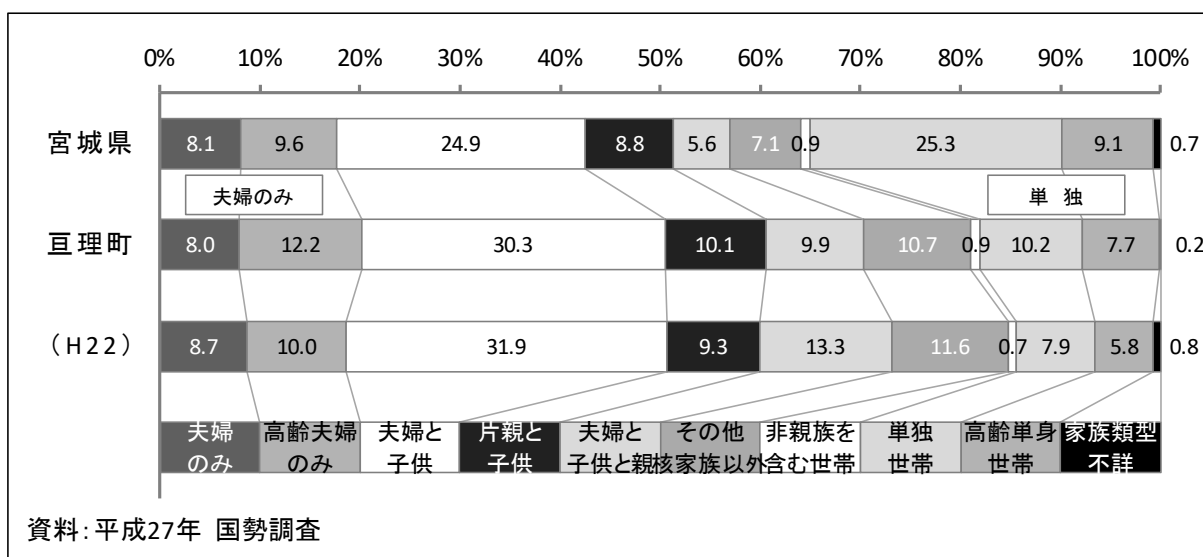
【近年の状況】

- 県平均と比較して「夫婦と子供」「夫婦と子供と親」の割合が高く、「単独世帯」の割合が低い(3世代世帯を含み子育て世帯が多い)という特徴は変わらない。
- 近年では「夫婦のみ」の割合が高くなっているが、それは「高齢夫婦のみ」の割合の増加に起因している。

【参考：前回策定時の記載内容】

- 互理町の世帯構成は、県平均と比較して「夫婦と子供」「夫婦と子供と親」の割合が高く、「単独世帯」の割合が低い。3世代世帯を含み子育て世帯が多いのが特徴といえる。

■ 家族類型別世帯構成



⑥ 就業構造

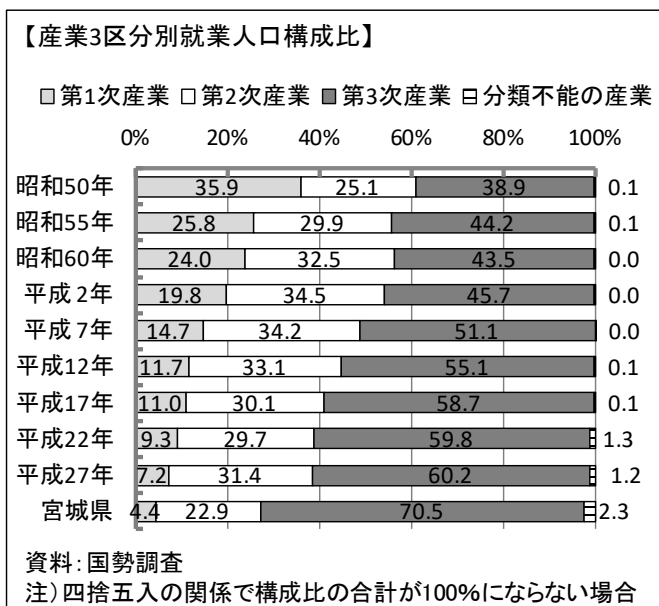
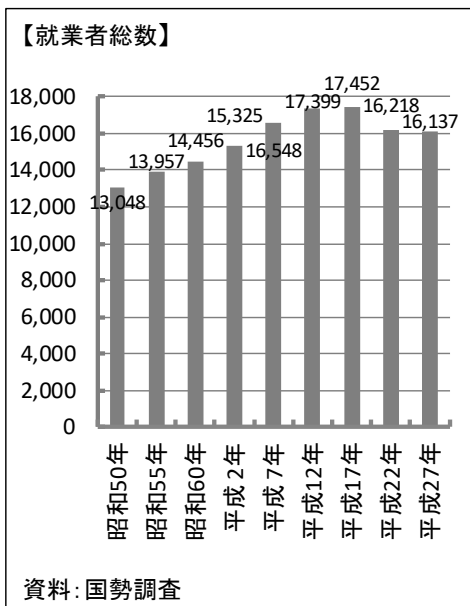
【近年の状況】

- 就業人口は平成 22 年(2010 年)に比較して大きく減少していない。第 1 次産業構成比の低下が止まらず、第 2 次産業、第 3 次産業の構成比はやや高まったが、県平均と比較すると第 2 次産業の構成比が高く、第 3 次産業の構成比が低い。
- 従業者(亶理町で働く就業者)の構成比は、就業者の構成比に比べ第 2 次産業が高く、第 3 次産業が低くなっている。また、就従比(=従業者÷就業者で、1 を下回れば流出超過)はおおむね 0.7 と変わらず、第 2 次産業の従業者を周辺地域から集め、一方で、多くの第 3 次産業の就業者が亶理町から周辺地域に通勤している様子が見て取れる。昼夜間人口比(昼間人口÷夜間人口×100)は約 83%で平成 22 年(2010 年)と同水準である。
- 通勤通学において亶理町と関係の深い市町は、仙台市を主とし、名取市、岩沼市、山元町などで変わらないが、平成 22 年(2010 年)と比較すると名取市、角田市、柴田町からの流入が増加した点が特徴的である。

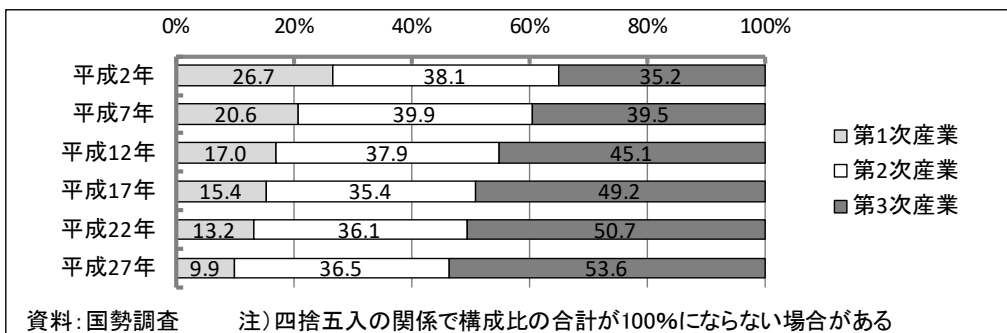
【参考：前回策定時の記載内容】

- 人口の減少と同様に、就業人口も平成 22 年に減少に転じた。
- 産業 3 区分別就業人口構成比をみると、第 1 次産業構成比の低下と、第 2 次・第 3 次産業構成比の上昇で特徴づけられるが、県平均と比較すると、第 1 次産業がやや多くなっている。また、平成 2 年以降、第 2 次産業の構成比は徐々に低下している。
- 従業者(亶理町で働く就業者)の構成比をみると、就業者の構成比に比べ第 2 次産業が高く、第 3 次産業が低くなっており、亶理町から第 3 次産業就業者が周辺地域に通勤していると考えられる。
- 就従比(=従業者÷就業者で、1 を下回れば流出超過)は概ね 0.7 で、通勤により就業者が周辺地域へ流出する傾向が顕著である。
- 通勤・通学において亶理町との関係が深い市町は、仙台市、名取市、岩沼市、山元町などである。特に、仙台市への通勤・通学が際立って多く、通勤や通学において仙台市との結びつきが強いといえる。
- 夜間人口は平成 22 年に減少に転じたが、昼間人口は増加幅は小さいものの増加傾向を維持しており、その結果、昼夜間人口比(昼間人口÷夜間人口×100)は平成 12 年を底にやや回復傾向にある。

■ 就業構造の推移



■ 産業3区別従業人口構成比の推移



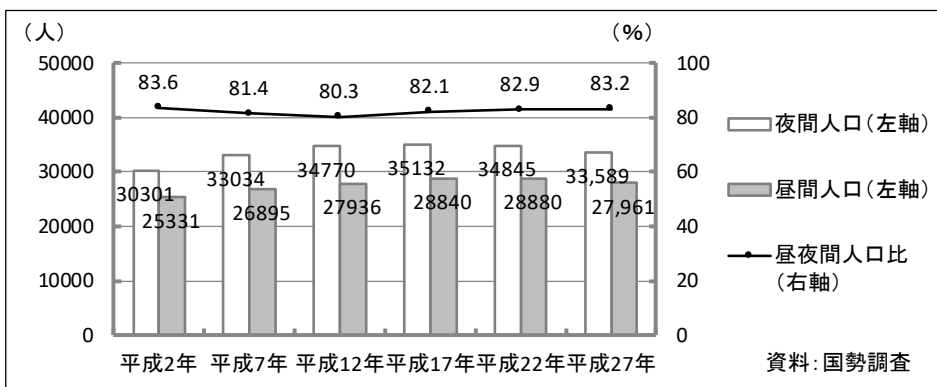
■ 就従比

	平成12年			平成17年			平成22年			平成27年		
	就業者	従業者	就従比	就業者	従業者	就従比	就業者	従業者	就従比	就業者	従業者	就従比
総数	17,399	11,883	0.68	17,452	12,405	0.71	16,218	11,348	0.70	16,137	11,460	0.71
第1次産業	2,036	2,022	0.99	1,920	1,909	0.99	1,509	1,494	0.99	1,165	1,135	0.97
第2次産業	5,751	4,498	0.78	5,257	4,391	0.84	4,813	4,102	0.85	5,066	4,178	0.82
第3次産業	9,612	5,363	0.56	10,275	6,105	0.59	9,896	5,752	0.58	9,906	6,147	0.62

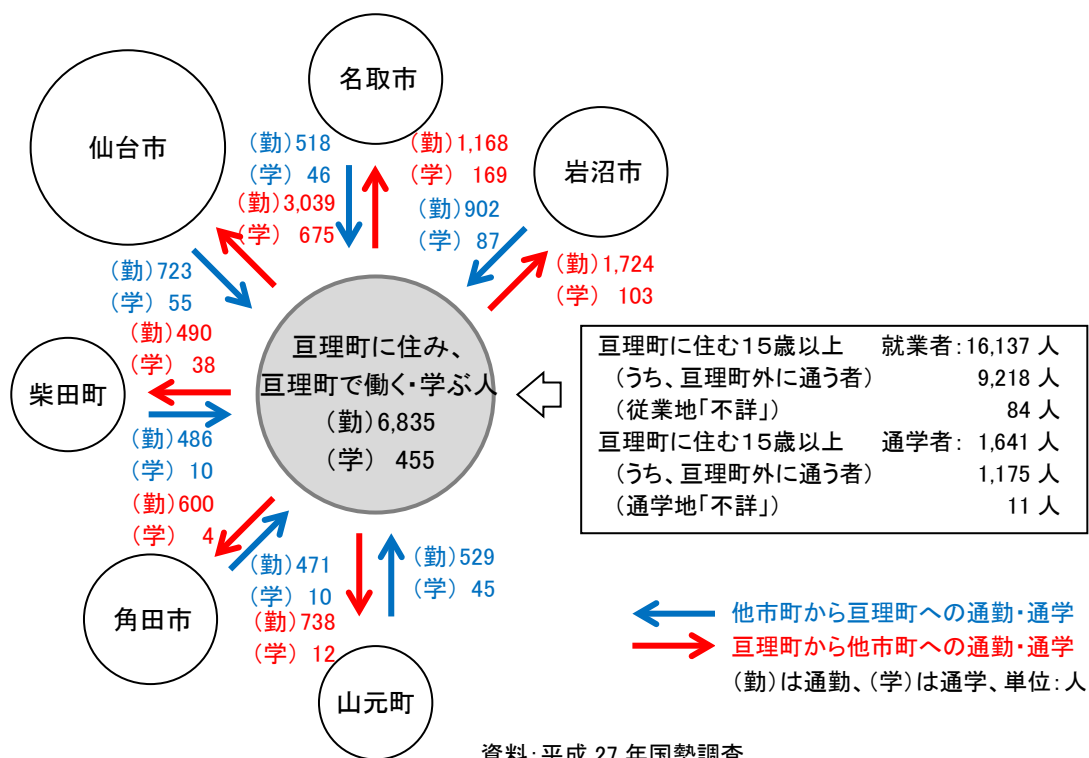
資料: 国勢調査

注) 分類不能の産業は第3次産業に含めた ○ 就業者は常住地による就業者
就従比 = 従業者 ÷ 就業者 ○ 従業者は従業地による就業者

■ 昼夜間人口の推移

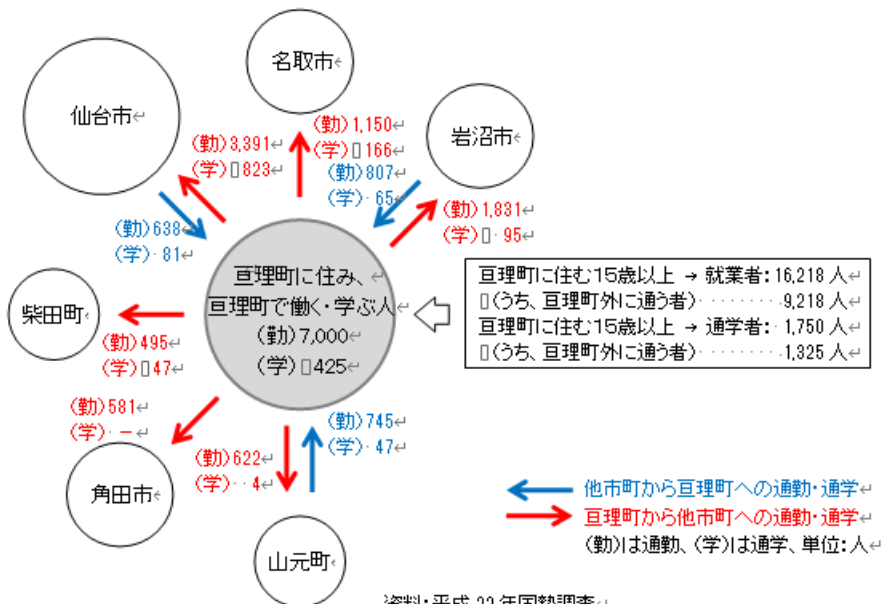


■ 通勤・通学の状況（平成 27 年）



資料:平成 27 年国勢調査
※移動がおおむね 500 人以上ある市町のみ記載した

【参考】通勤・通学の状況（平成 22 年）



資料:平成 22 年国勢調査
※通勤者の移動が 500 人以上ある市町のみ記載した

⑦ 経済活動

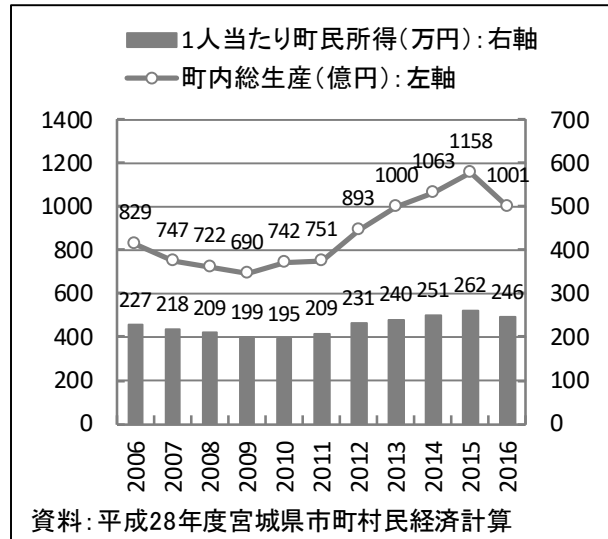
【近年の状況】

- 町内総生産は震災後上昇し、平成 28 年(2016 年)には低下したものの 1,000 億円を上回っている。1 人当たり町民所得も平成 27 年(2015 年)までは増加傾向にあった。
- 町内総生産の産業別構成比を県平均と比較すると、製造業、建設業で高く、卸売・小売業、専門・科学技術・業務支援サービス業(研究開発、学術研究など)などで低い。

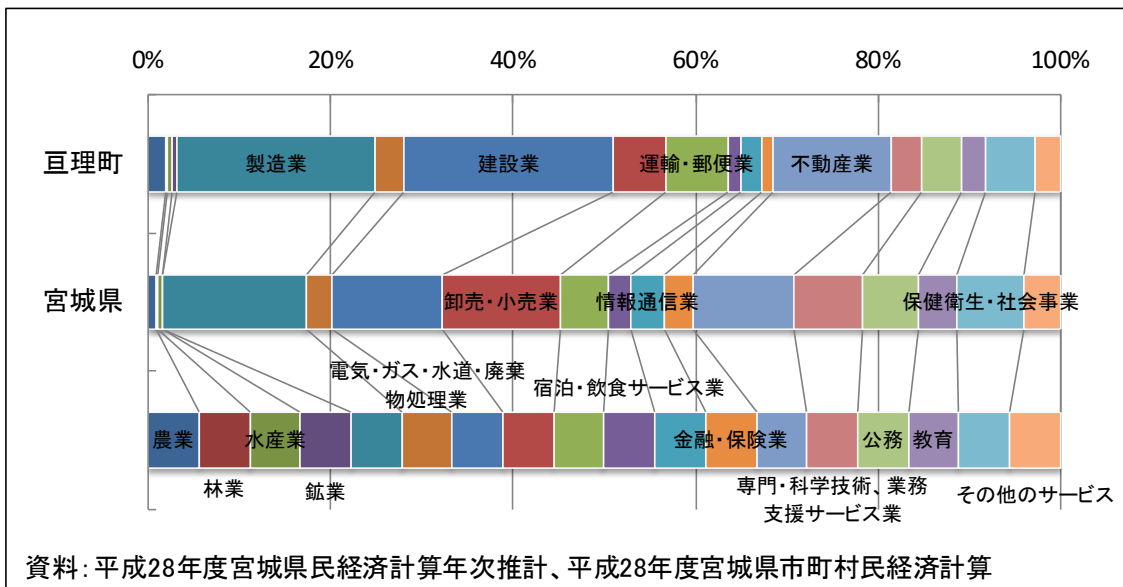
【参考：前回策定時の記載内容】

- 町内総生産は概ね 700～800 億円で比較的安定的に推移しているが、1 人当たり町民所得は平成 13 年度 2,342 千円から平成 22 年度 2,006 千円とやや下落している。
- 町内総生産の産業別構成比を県平均と比較すると、農業、製造業、不動産業で高く、卸売・小売業、情報通信業、サービス業などで低い。

■町内総生産と町民所得



■総生産の産業別構成 (平成 28 年度)



⑧ 農業

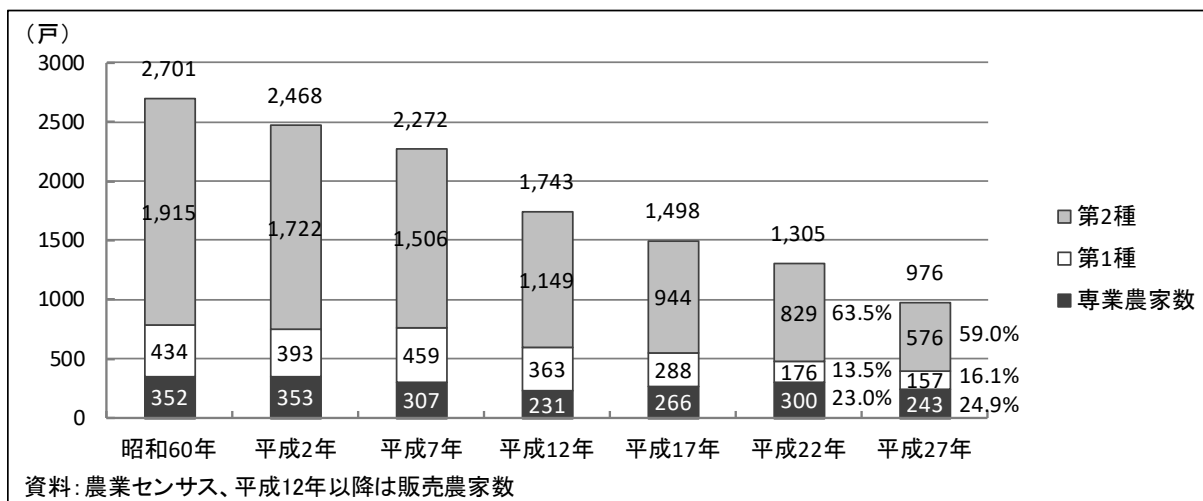
【近年の状況】

- 農家数の減少に歯止めが掛からず、経営耕地面積も再び減少した。ただし、専業農家と第1種兼業農家の割合は増加している。また、農家当たりの経営耕地面積は拡大しており、農地の集約化が進んでいる。

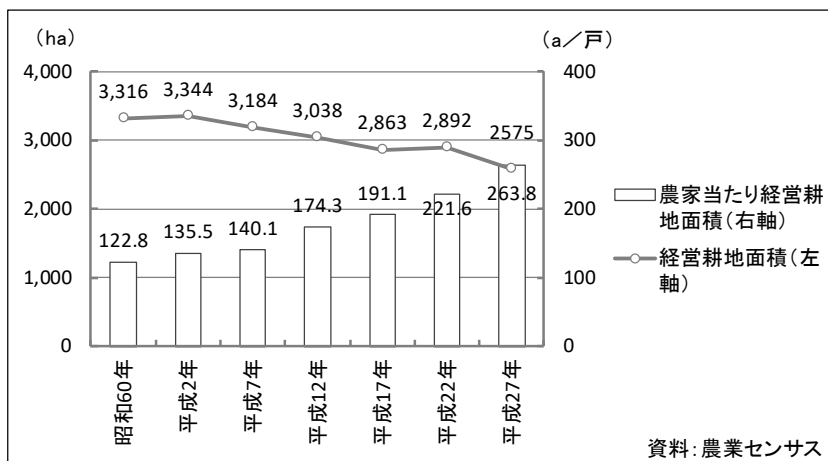
【参考：前回策定時の記載内容】

- 農家数(平成12年以降は販売農家)は年々減少し、平成22年には約1,300戸(販売農家)となっている。ただし、専業農家は平成12年以降増加している。
- 経営耕地面積は平成22年にわずかながら増加した。また、農家当たりの経営耕地面積は拡大傾向にあり、農地の集約化が進んでいるといえる。
- 経営耕地面積の85%を田が占めており(平成22年)、稲作が基幹作物となっているが、イチゴ、リンゴ、葉物野菜の生産も盛んである。

■農家数の推移



■経営耕地面積の推移



⑨ 水産業

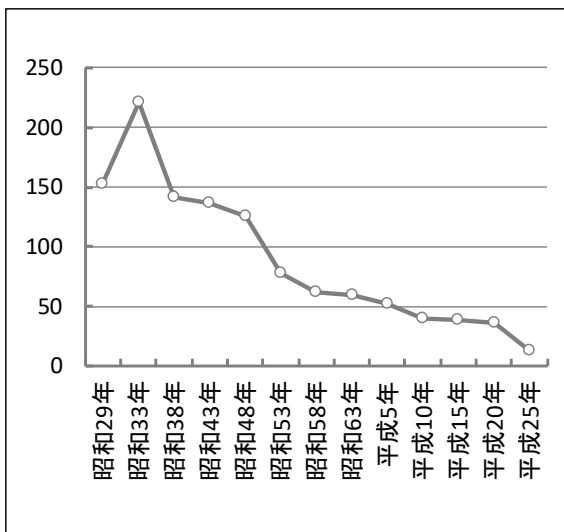
【近年の状況】

- 漁業経営体数は大きく減少し、自営漁業者のほとんどが専業となった。
- 漁獲金額は震災後大きく伸び、漁業種別の構成比をみると乾のりの比率が低下(47.5%から15.2%)し、刺網の比率が大きく伸びた(10.6%から40.2%)。

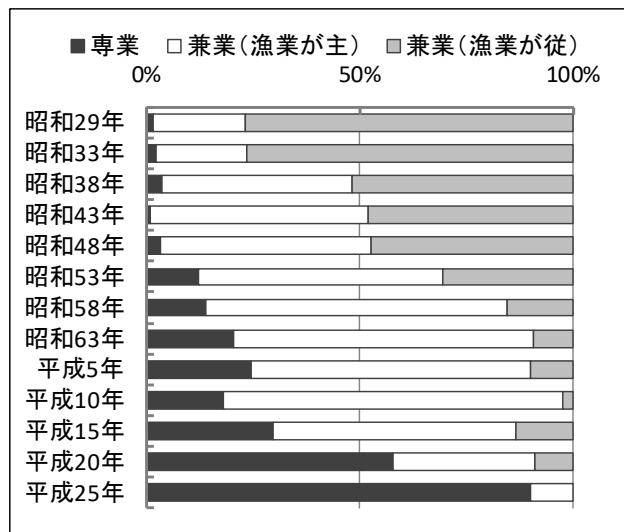
【参考：前回策定時の記載内容】

- 漁業経営体数、漁獲金額ともに減少傾向をたどり、特に漁獲金額の近年の落ち込みが著しい。
- 漁業経営体に占める個人経営体(自営漁業)の割合は一貫して90%を超えている。また、自営漁業の専業割合をみると、近年専業の割合が急増している。漁業経営体の総数及び個人経営体数の減少は下げ止まりの傾向をみせており、兼業が廃業し、専業が経営を続けているものと考えられる。また、兼業の種別をみると、旧来は農業との兼業が多数を占めていたが近年は激減し、遊魚案内業との兼業が増加している。
- 漁獲金額をベースにみると(平成22年)、乾のりが47.5%、曳網が25.0%を占めている。

■ 漁業経営体数の推移

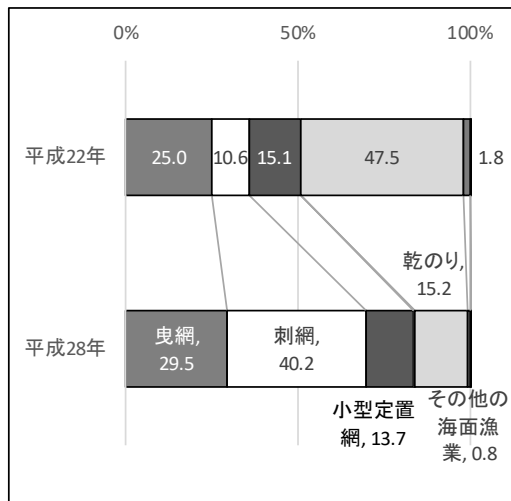
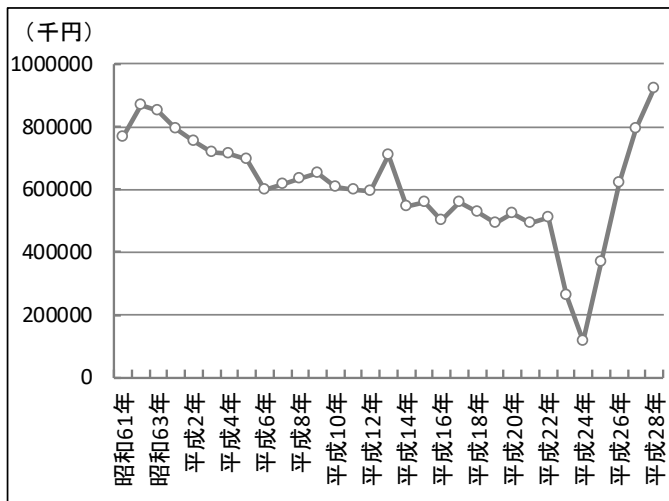


■ 自営漁業の専業割合の推移



資料：漁業センサス結果報告書、沿岸漁業臨時調査結果報告書

■漁獲金額の推移と漁業種類構成



資料: 宮城県漁業協同組合 亘理支所魚市場の卸売業者の取扱高を取りまとめたもの

⑩ 工業

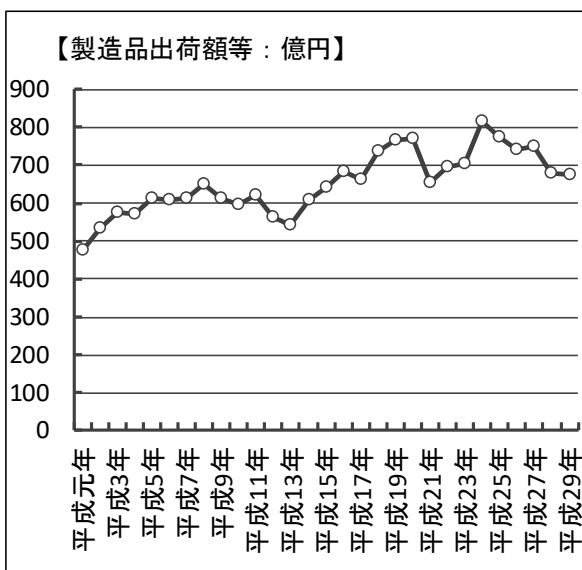
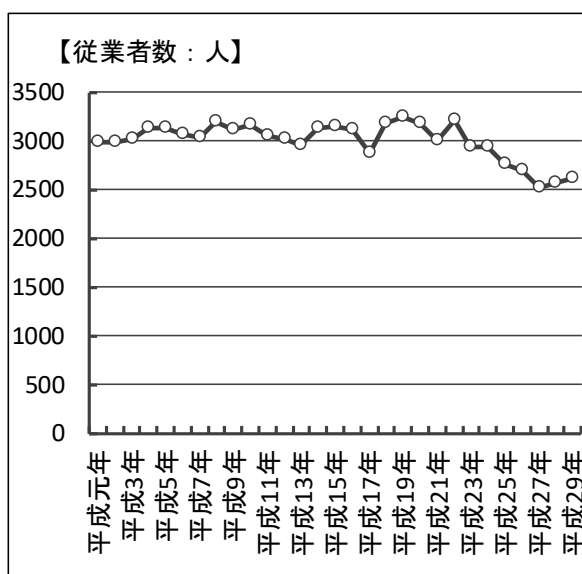
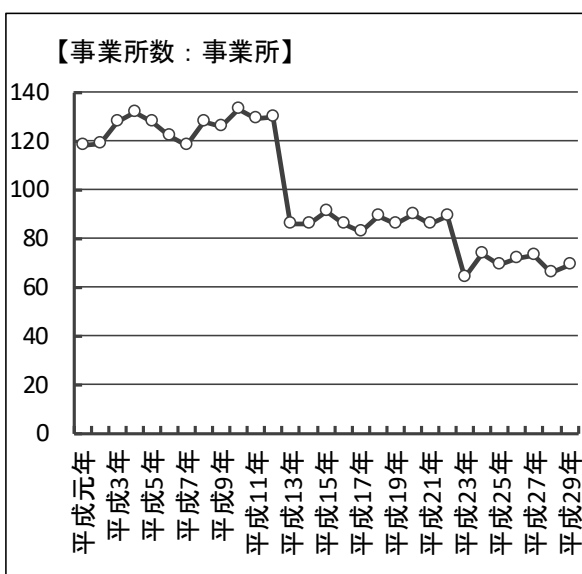
【近年の状況】

- 事業所数は震災後大きく落ち込んだが、その後は安定的に推移している。従業者数、製造品出荷額等は減少傾向にあったが、直近では下げ止まり傾向もみえる。

【参考：前回策定時の記載内容】

- 平成13年からは従業者数4人以上の集計になったため、事業所数に関しては平成13年に大幅に減少している。事業所数、従業者数に関しては、増減はあるものの安定的に推移している。また、製造品出荷額等に関しては、全体的には増加傾向にあるといえる。
- 工業の主要業種は(製造品出荷額等ベース)、プラスチック製品製造業、輸送用機械器具製造業、その他の製造業であり、これら3業種で全体の67%を占める(平成22年)。

■ 工業の推移



資料：工業統計調査

注) 平成13年からは従業者数4人以上の事業所の集計

⑪ 商業

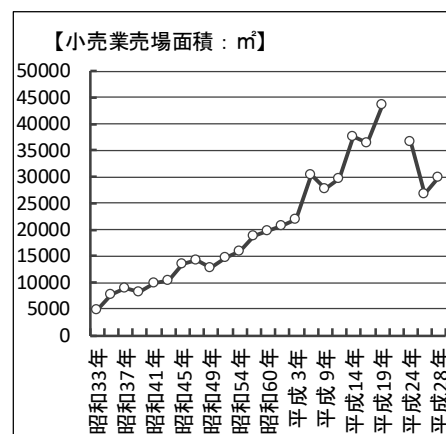
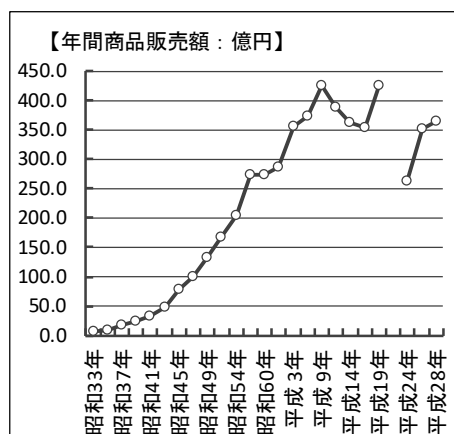
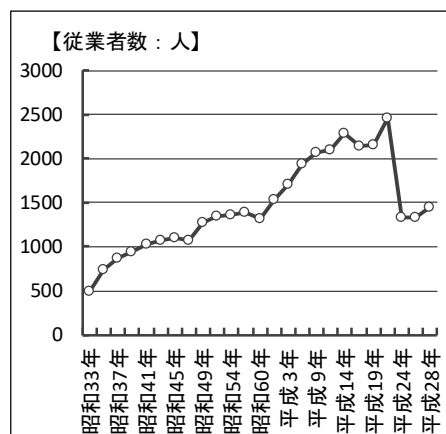
【近年の状況】

- 事業所数、従業者数、年間商品販売額、売場面積ともに震災後大きく落ち込んでいたが、直近では下げ止まり傾向もみえる。

【参考：前回策定時の記載内容】

- 事業所数(昭和 57 年までは飲食店を含み、昭和 60 年以降は卸売業・小売業のみ)は平成 3 年をピークに減少に転じている。しかし、従業者数、年間商品販売額、小売業売場面積はほぼ一貫して増加傾向にある。
- 亘理町の商圈は、超広域型としては「仙台宮城野商圈」に、広域型としては「名取商圈」に、地域型としては「大河原商圈」に含まれる。
- 「宮城県の商圈(消費購買動向調査報告書)平成 24 年 11 月調査」によれば、亘理町の地元購買率¹は買回品²で 16.1%、最寄品³で 80.6%となっており、買回品を町内で買い物する人の割合が低い。

■ 商業の推移



資料：商業統計調査、経済センサス-活動調査
注) 昭和60年以降「飲食店」が分離

¹ 地元購買率とは、地元(亘理町内)で買い物をする人の割合。

² 買回品とは、消費者が製品を比較検討した上で購入する家具・家電製品などの耐久消費財や趣味の品などをいう。

³ 最寄品とは、日用品や食料品など普通生活雑貨をいう。

⑫ 観光

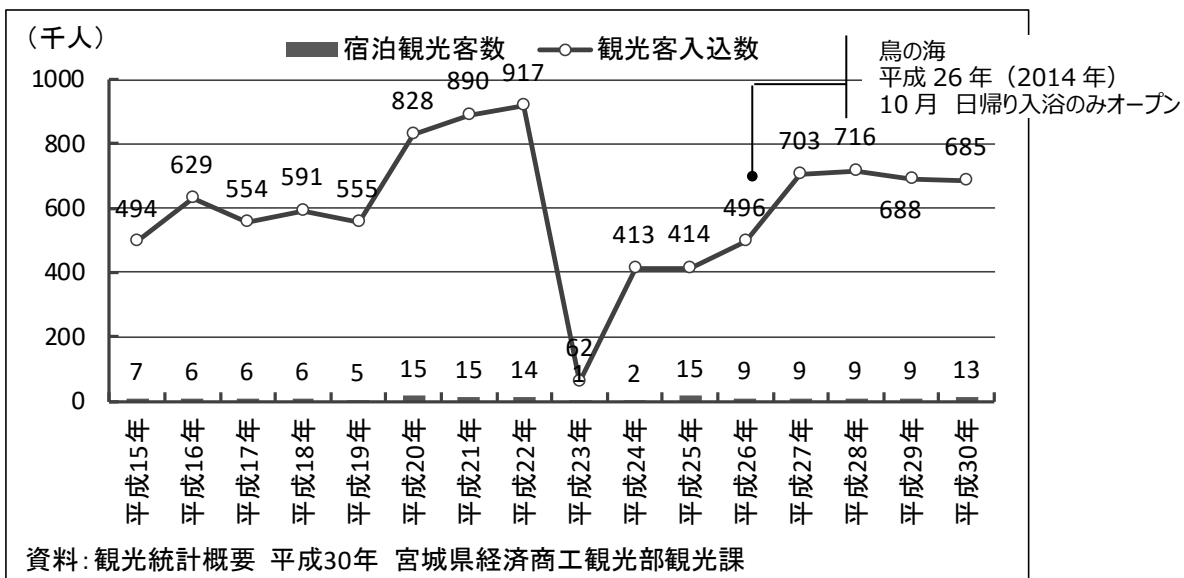
【近年の状況】

- 観光客入込数、宿泊観光客数ともに回復傾向にあるものの、震災前の水準には戻っていない。

【参考：前回策定時の記載内容】

- 互理町の観光客入込数は大きなものではなく、震災前の平成22年で県の1.5%を占めるに過ぎない。また、宿泊観光客数は極めて少ない。
- 主な観光目的は、マリンスポーツ・釣り、産直施設、海水浴(荒浜)などで、平成20年には「わたり温泉鳥の海」のリニューアルオープンに伴い観光客入込数が増加した。その後、観光客入込数は100万人に近づきつつあったが、そのほとんどが海浜資源を活用したものであったため震災の影響は大きい。

■ 観光客入込数の推移



3. 町民生活

【近年の状況】

- 保育所入所待機児童数は平成 23 年度(2011 年度)の 38 人から令和元年度(2019 年度)では 8 人と大きく改善された。その他、県内順位にみる教育、都市基盤、医療・保健、福祉の状況に大きな変化はみられない。
- NPO 法人は 9 法人になり、まちづくり協議会の活動も継続的に行われている。

【参考：前回策定時の記載内容】

① 教育

- 平成 23 年時点(学校基本調査)で、幼稚園 1 園当たり在園者数は 78 人、小学校 1 校当たり児童数は 318 人、中学校 1 校当たり生徒数は 247 人となり、学校の平均規模は概ね県内中位に位置する。
- 小中学校の児童生徒数は学校で偏りがあり、亘理小学校、亘理中学校、逢隈小学校、逢隈中学校の児童生徒数が多くなっている。

② 都市基盤

- 上水道の普及率は世帯数、人口ともに 99%である。
- 下水道は、全体計画面積 1,321.2ha のうち 799.9ha が供用開始され、水洗化率(使用人口÷供用開始人口)は 89.8%に達している(平成 24 年 3 月現在)。ただし、総人口に占める非水洗化人口の割合は 22.5%で県内中位にとどまっている。
- 人口 1000 人当たりの都市公園の数は 0.4 箇所、県内中位である。

③ 医療・保健

- 一般病院はないものの、人口 10 万人当たりの一般診療所数は 69 施設と県内でも高い水準となっている。ただし、人口 1000 人当たりの医師数は 0.7 人と県内の水準として高いものとはいえない。
- ごみのリサイクル率は 23.1%で県内トップ水準である。
- 基本健康診査の受診率は平成 23 年度で 42.8%となっている。

④ 福祉

- 保育所入所待機児童数は平成 23 年度で 38 人となっている。また、保育所在所児 1 人当たりの待機児童数は県内で最も多い。
- 介護保険の認定者数は年々増加し、平成 23 年度で 1,635 人となり、認定率(認定者数÷65 歳以上人口)は 20.28%となっている。また、平成 22 年現在、介護老人福祉施設は日就苑、第二日就苑の 2 施設にとどまり(その後、けいけん荘が開設)、65 歳以上人口 10 万人当たり介護老人福祉施設は県内中位にある。

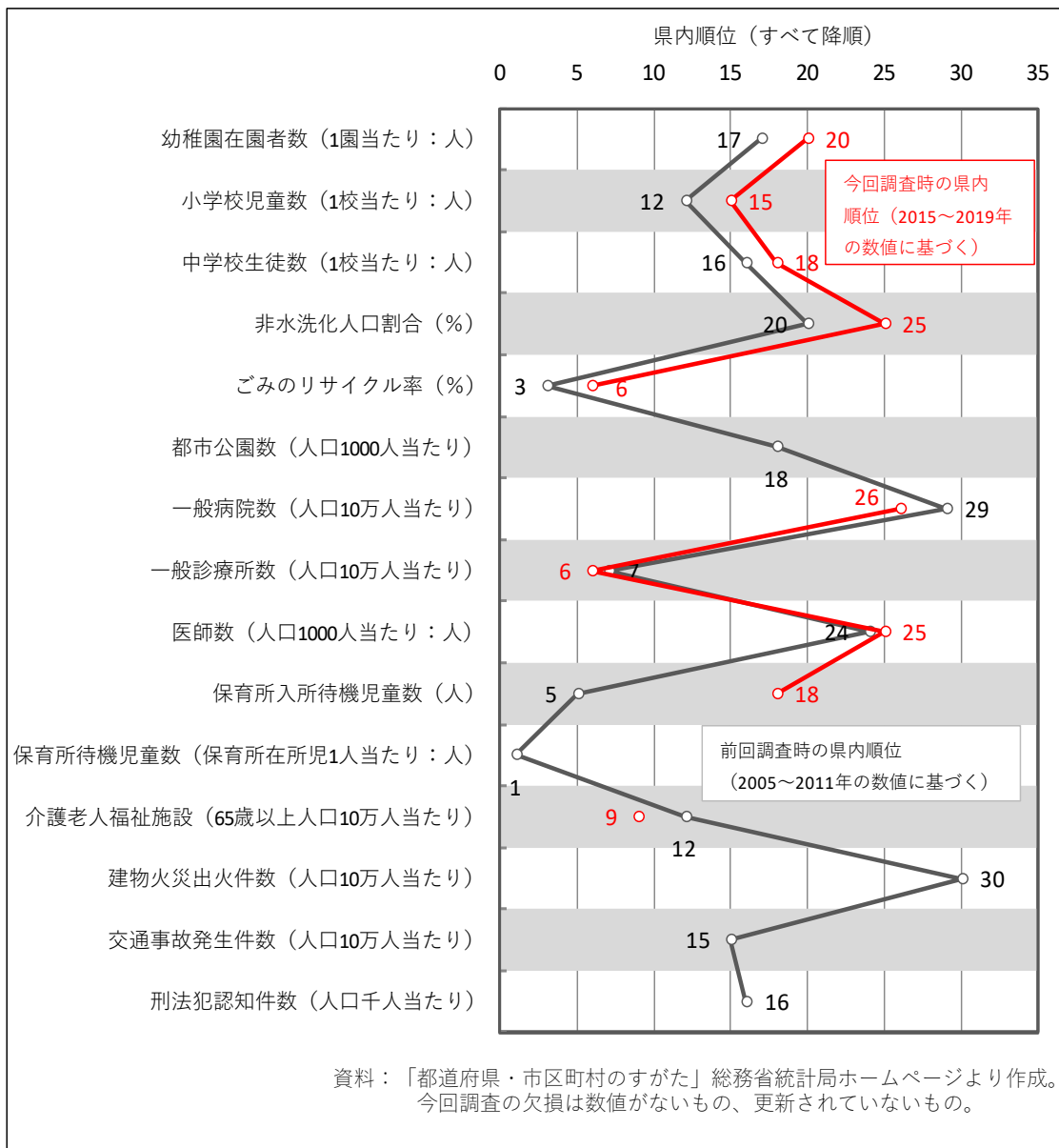
⑤ 安全

- 平成 23 年の火災発生件数、交通事故発生件数、犯罪認知件数は、各々 25 件、201 件、338 件となっている。
- 人口 10 万人当たり建物火災出火件数は県内低位にあり、火災発生件数は年間 10～30 件の幅で安定的に推移している。人口 10 万人当たり交通事故発生件数、人口千人当たり刑法犯認知件数は県内中位にあり、近年 200 件前後で推移しているが、犯罪認知件数は減少傾向にある。

⑥ 町民活動等

- 互理町に所在地を持つ NPO 法人は 8 法人あり、次表のような活動を行っている。
- 町内会や各種団体の代表者などで横断的に構成し、地域の課題の把握や情報交換を行い、その解決に取り組む自治組織として「まちづくり協議会」があり、吉田西部地区、吉田東部地区、荒浜地区、逢隈地区、互理地区の 5 地区で構成されている。

■町民生活関連指標にみる互理町の県内順位



■巨理町に所在地を持つNPO法人

法人名称	代表者名	主たる事務所の所在地	主な活動分野	主な事業内容	目的	設立年月日
いきいき巨理	小松原壽一	巨理郡巨理町字上茨田161番地4	まちづくり	国道沿い緑地花壇作り等	本会は、宮城県巨理郡巨理町における、やすらぎのある「まちづくり」を積極的に推進し、公益の増進に寄与することを目的とする。	平成16年10月1日
巨理町サッカー協会	青田俊彦	巨理郡巨理町字上町2番地	社会教育	スポーツ教室、運営、指導力向上に関する事業	この法人は、子供から大人まで全ての人に対し、スポーツ教室、スポーツクラブ運営並びに競技力・指導力の向上に関する事業を行い、スポーツの振興と地域社会づくりに寄与することを目的とする。	平成22年12月15日
巨理いちごっこ	馬場照子	巨理郡巨理町字南町東10-1	まちづくり	被災地域を中心としたコミュニティ形成事業等	地域住民、そしてその地域を支えようとしてくださっている方々とともに手を携え、震災地域の再起を図る。また、震災復興後も人と人のコミュニティの場として機能していくことを目的とする。	平成23年12月16日
宮城県くらしの共生福祉互助会	渡邊紀男	巨理郡巨理町長瀬字長峯10番地19	保健・医療・福祉	障害者福祉サービス事業、共同生活介護事業、生活支援事業等	障害者が自立し社会参加できる社会、生甲斐を持って生活できる社会の実現が強く望まれている。しかし自立の社会参加・復帰への強い意欲を持っているにもかかわらず、その障害のために入院・その他福祉施設に入居を余儀なくされている障害者が極めて数多く存在するのが現実である。この法人は、自然と調和した社会づくりによるまちづくりの推進を図ることを基本思考として、障害者が、自立に向け最初の一步を振り出す為に住居を確保し、その持ちえる能力と適性に応じた活動を行うことによって社会の一員としての自覚を持ち生きがいを持って生活し社会参加・復帰できるように、家庭・家族の福祉の増進に関する事業を行い地域社会に寄与することを目的とする。	平成24年1月19日
エフエムあおぞら	苫米地圭	巨理郡巨理町吉田字大谷地72番地656	まちづくり	コミュニティFM放送事業	この法人は、巨理町の町民に対して、放送などのコミュニティメディアを活用し、巨理町の地域コミュニティが有機的に円滑に機能するように働きかけ、地域の活力増進と巨理町のコミュニティの活性化に寄与することを目的とする。	平成25年7月31日
マリアナ旅鯉	田口柁路	巨理郡巨理町藤倉78	環境保全	ニホンウナギの天然資源の回復及び保護に関する事業を通じ、水環境の保全を図る活動	この法人は、絶滅危惧種指定淡水魚ニホンウナギの天然資源の回復及び保護に関する事業を通じ、水環境と人の暮らしが共生できる社会の実現に寄与することを目的とする。	平成26年3月17日
わたりグリーンベルトプロジェクト	片岡義隆 嘉藤一夫	巨理郡巨理町吉田字原306番16号	環境保全	巨理町沿岸部の緑化を通じた地域産業振興事業	この法人は、東日本大震災で壊滅的な被害を受けた巨理町の海岸林を中心とした地域を、住民が行政や事業者と連携して復興し、次世代へ継承していくことを目的とする。上記の目的のもと、巨理町沿岸部を対象に、地域の未来について住民が意見を交わす場の提供、地元種苗業者と連携した郷土種の苗木づくり、動植物豊かな海岸林づくりとその維持管理、世代や地域、職業を超えた交流による多様な担い手の育成を行う。これによって、町内外の多様な市民が主体となって、自然と人が共生した、安全・安心で賑わいのある地域を創ること、そしてその地域に根づいた思いや文化・伝統が継承されていくことを目指す。	平成27年2月13日
オール子どもの夢	木村昌三	巨理町逢隈田沢字砂押50番地11	子ども	放課後学童及び一般に対する英語教育	この法人は、主として巨理町を中心とした仙南地域の住民に対して、子育て支援、国際交流や環境保全等に関する事業を行い地域の活性化と住み良いまち作りに寄与することを目的とする。	平成30年7月11日
虹色たんぽぽ	嶋原さと子	巨理郡巨理町字油田35番地1	子ども	妊産婦をはじめとする子どもの健全育成に関わる環境から地域コミュニティの充実を図る支援事業	この法人は、地域住民に対して、生活の安全安心を向上させる事業を行い、地域発展と地域住民の生活の向上に寄与することを目的とする。	令和1年11月19日

資料：宮城県共同参画社会推進課 令和元年11月末日現在

4. 土地利用・都市基盤

① 土地利用規制

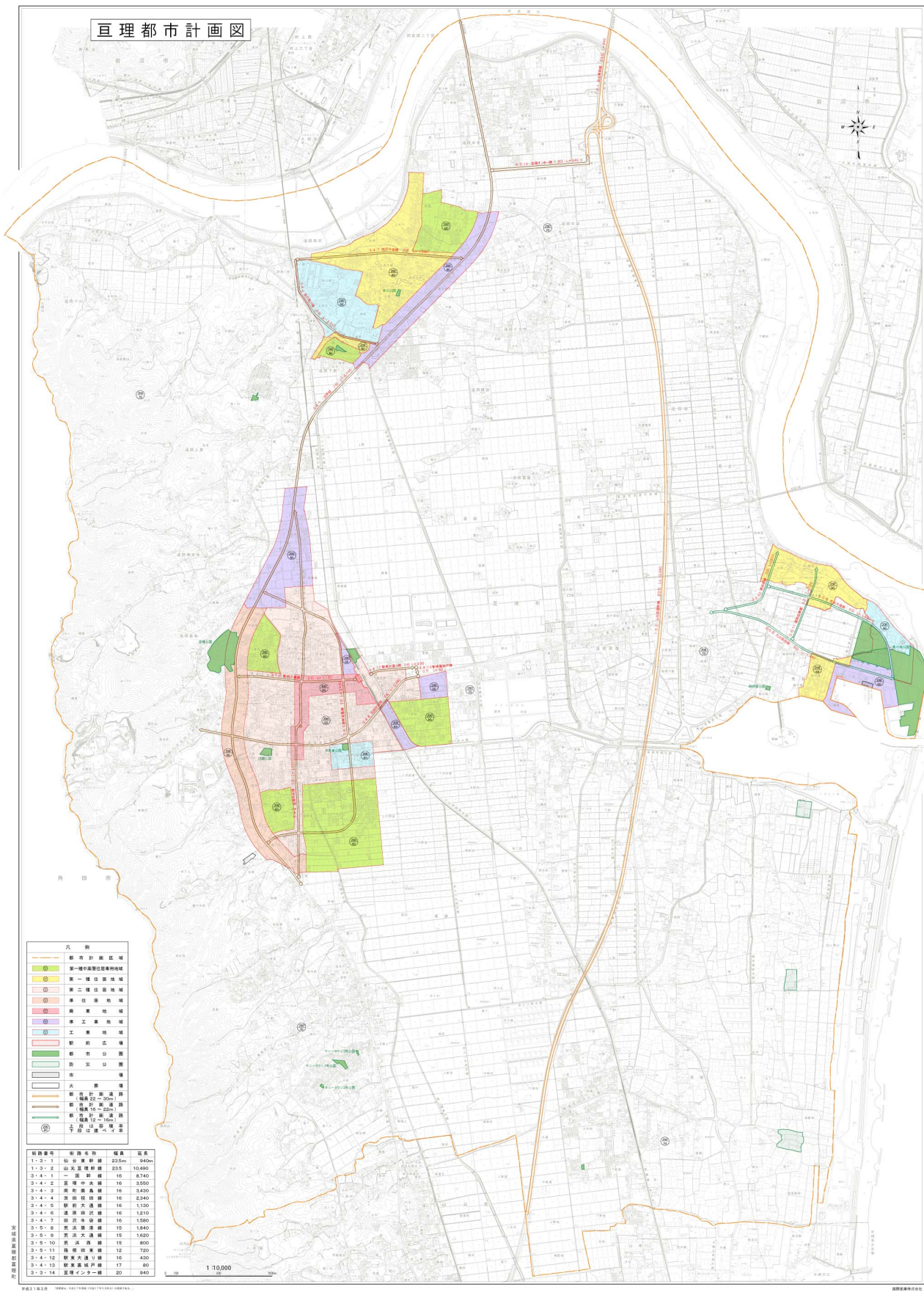
【近年の状況】

- 平成 27 年(2015 年)5 月 15 日に荒浜地区で用途市域、都市計画道路、都市計画公園の変更があった。
- その他の土地利用規制は基本的に従来どおりとなっている。

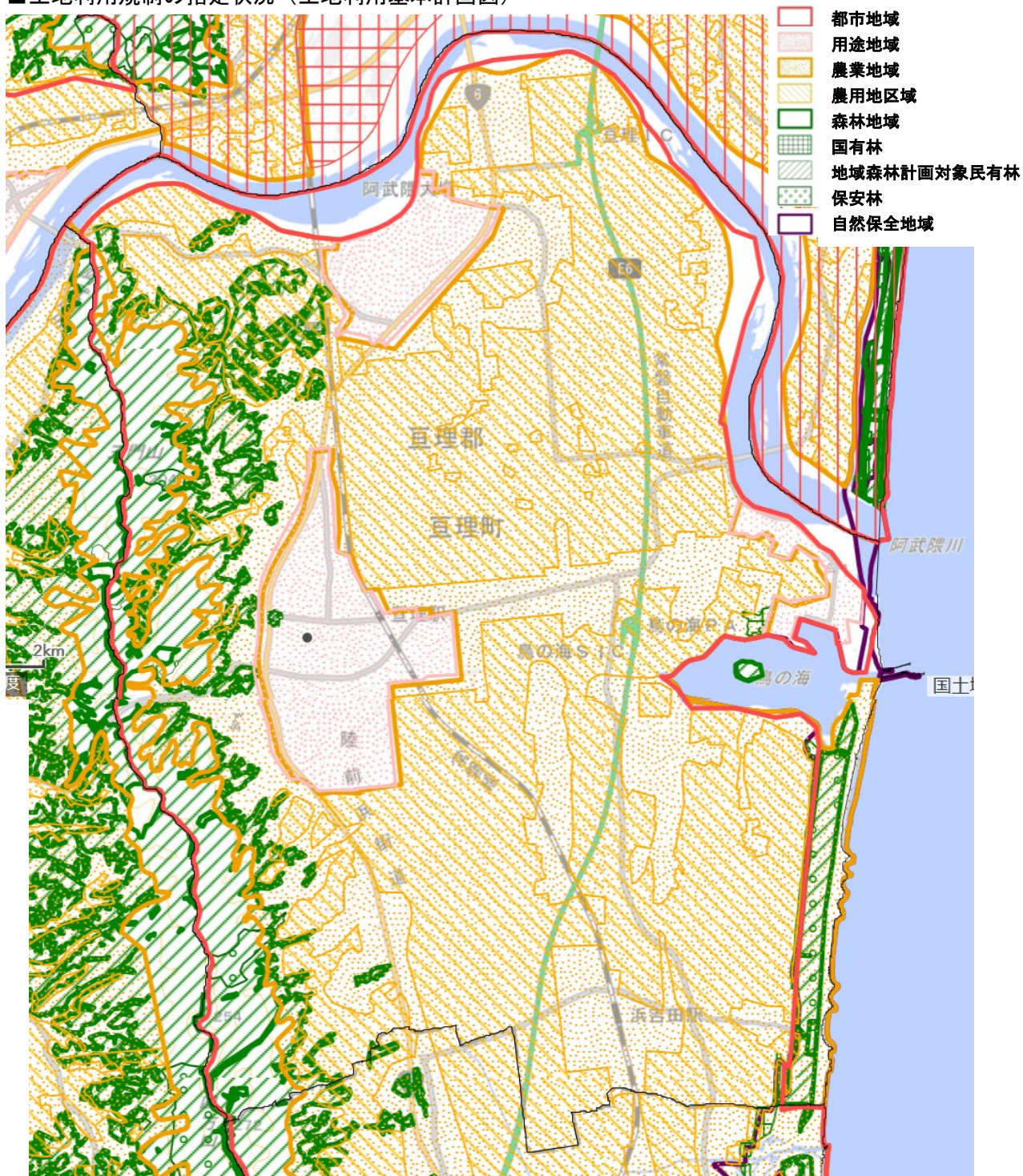
【参考：前回策定時の記載内容】

- 海岸線一帯は仙台湾海浜県自然環境保全地域に指定され、鳥の海には沿岸漁業基地である荒浜漁港がある。
- 海岸線は仙台湾海浜県自然環境保全地域と重なるように森林地域となっており、保安林が指定されている。また、角田市との境には標高 200m 前後の阿武隈高地の森林地域があり、良好な自然景観を形成している。
- 概ね海岸部の仙台湾海浜県自然環境保全地域を除き都市計画区域となっており、JR 常磐線亘理駅周辺、逢隈駅周辺及び荒浜地区に用途地域の指定がある。
- 用途地域及び阿武隈高地森林地域の一部を除き、農業振興地域となっており、平坦部を中心に農用地区域が広く指定されている。

■巨理都市計画図



■土地利用規制の指定状況（土地利用基本計画図）



出典：国土交通省 土地利用調整総合支援ネットワークシステム

② 土地利用

【近年の状況】

- 令和2年(2020年)1月6日に新庁舎・保健福祉センターが亙理町字悠里1番地に移転、業務を開始した。
- 旧亙理高校グラウンド跡地などが処分対象財産として挙がっている。

【参考：前回策定時の記載内容】

- 中央部から東部海岸にかけては平坦な地形で水田が広がり、畑が混在しているが、特に吉田地区にはイチゴを中心とする畑地が広がっている。西部丘陵地帯は森林を主に果樹園等として利用されている。
- 岩沼市との境には阿武隈川が弧状を描きながら東流して太平洋に注いでいる。
- 宅地は、主として3ヶ所の用途地域が指定されている地区を中心に平坦部に分布している。中心的な市街地はJR常磐線亙理駅の西側に展開しており、主要な施設が集積している。
- 平成16年から24年までの町土地利用の推移をみると、農用地が減少し、宅地や一般道路等の都市的土地利用が増加している。しかし、その面積はわずかで、自然的土地利用から都市的土地利用への転換は全体として鈍化している。また、農用地の減少は底を打ちつつあり、平成22年にはわずかではあるが増加している。
- 平成23年の農用地、水路、道路、宅地の大幅減は震災の影響である。

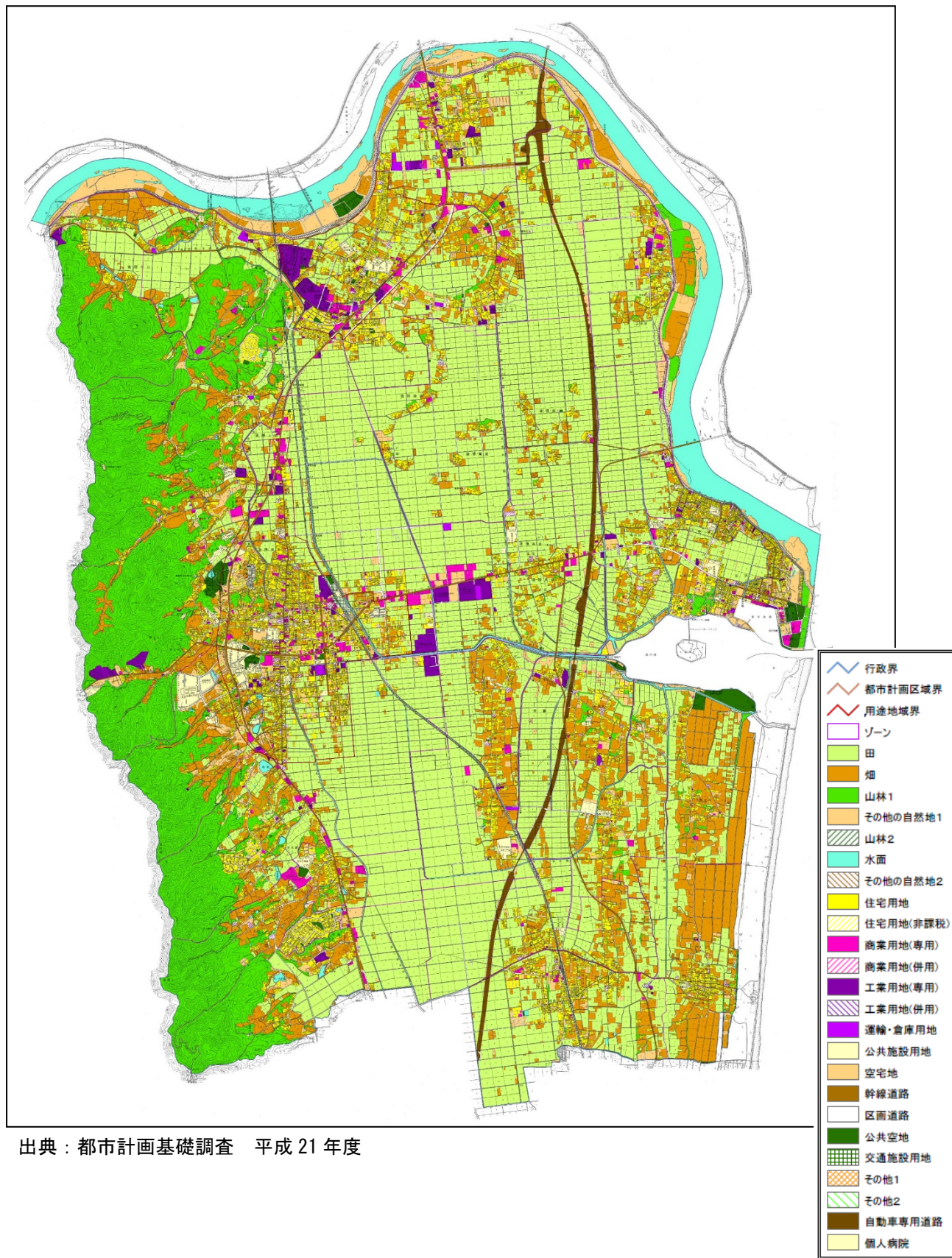
■土地利用の推移

単位:ha

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
農用地	3,471	3,477	3,455	3,453	3,451	3,451	3,456	1,596	2,138
農地	3,471	3,477	3,455	3,453	3,451	3,451	3,456	1,596	2,138
田	2,900	2,890	2,840	2,830	2,820	2,670	2,600	1,010	1,550
畑	571	587	615	623	631	781	856	586	588
採草放牧地	0	0	0	0	0	0	0	0	0
森林	1,075	1,075	1,075	1,072	1,072	1,072	1,072	1,067	1,067
国有林	26	26	26	23	23	23	23	23	23
民有林	1,049	1,049	1,049	1,049	1,049	1,049	1,049	1,044	1,044
原野	1	1	1	1	1	1	1	1	1
水面・河川・水路	810	812	811	810	810	811	808	732	758
水面	141	141	141	141	141	150	150	150	150
河川	493	493	493	493	493	493	493	493	493
水路	176	178	177	176	176	168	165	89	115
道路	589	593	591	597	605	657	656	579	605
一般道路	404	405	403	408	416	469	469	470	472
農道	181	184	184	185	185	184	183	105	129
林道	4	4	4	4	4	4	4	4	4
宅地	786	795	804	810	812	814	845	563	609
住宅地	558	562	567	571	574	578	581	353	388
工業用地	52	51	52	50	50	52	53	63	51
その他の宅地	176	182	185	189	188	184	211	147	170
その他	589	568	584	578	570	515	483	2,783	2,143
計	7,321	7,321	7,321	7,321	7,321	7,321	7,321	7,321	7,321

資料:宮城県国土利用計画管理運営資料

■土地利用現況図



出典：都市計画基礎調査 平成 21 年度

③ 地価

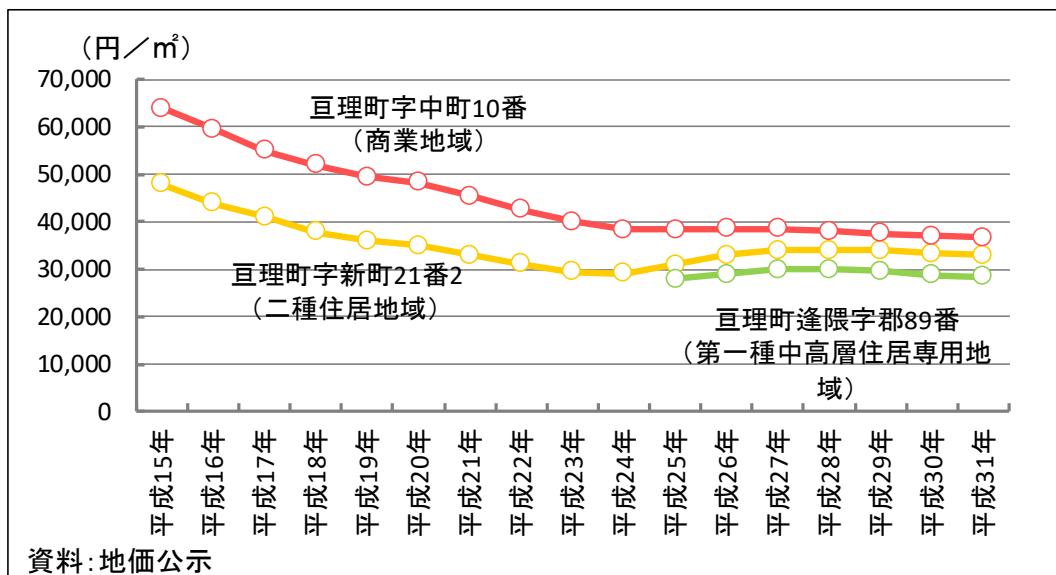
【近年の状況】

- 地価は平成 24 年(2012 年)を境にわずかながら上昇に転じた。ただし、その後横ばいから微減傾向を続けている。

【参考：前回策定時の記載内容】

- 地価の下落傾向が続いており、平成 26 年 1 月 1 日の地価公示価格は、商業地で約 4 万円／㎡弱、住宅地で 3 万円／㎡強程度となっている。
- 地価の下落傾向は底を打ちつつあり、亶理町字新町 21 番 2(二種住居地域)では平成 25 年に上昇に転じ、亶理町字中町 10 番(商業地域)でも平成 26 年に上昇に転じた。

■地価公示価格の推移



④ 土地需要・建設動向

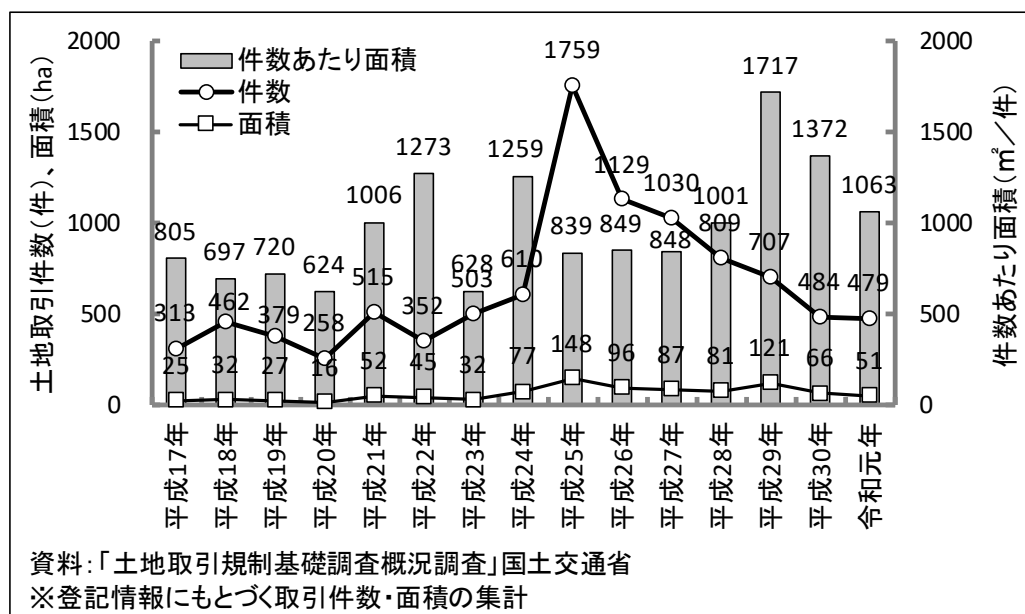
【近年の状況】

- 亶理町の土地取引件数、着工新設住宅戸数は、震災復興需要もあり、平成 25 年(2013 年)に大きく伸びたが、その後鎮静化している。

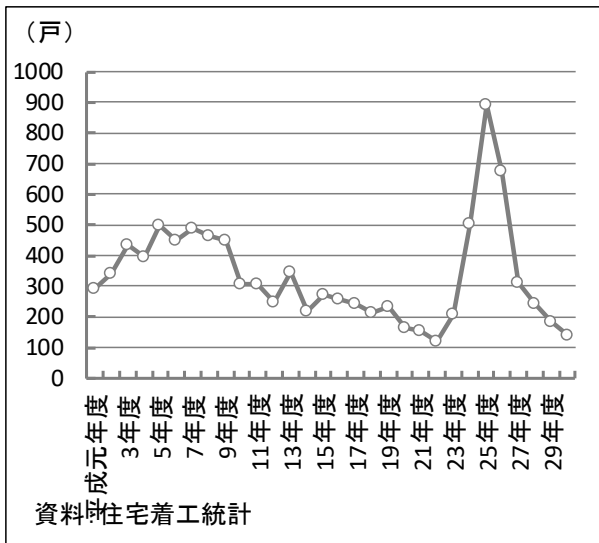
【参考：前回策定時の記載内容】

- 全国的に土地需要が沈静化している傾向にあるなか、亶理町の土地取引の状況を「土地取引規制基礎調査概況調査」でみると、震災復興需要もあり、取引件数は増加している。
- 着工新設住宅戸数の推移をみると、平成 5 年をピークに減少傾向にあったが、平成 24 年、25 年と震災復興需要で急増している。
- 建築確認申請は件数、延床面積ともに平成 10 年以前と比較して減少している。また、農地転用件数・面積も震災の影響で急増しているものの、平成 21 年度を除き近年微減傾向にあるなど、震災復興需要の影響を除き、建築行為、土地利用転換ともにその動きは少なくなりつつある。

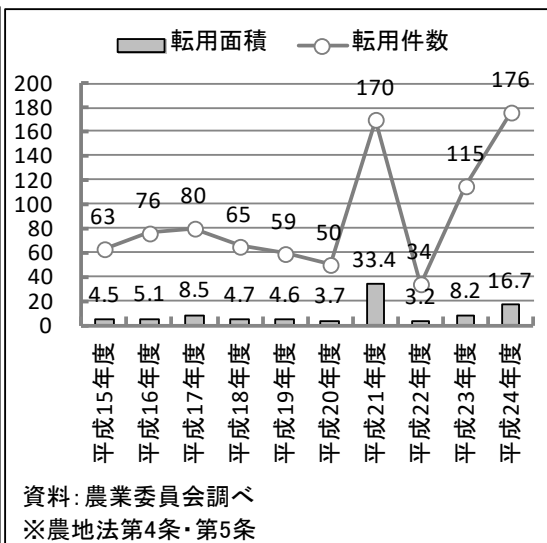
■土地取引の状況



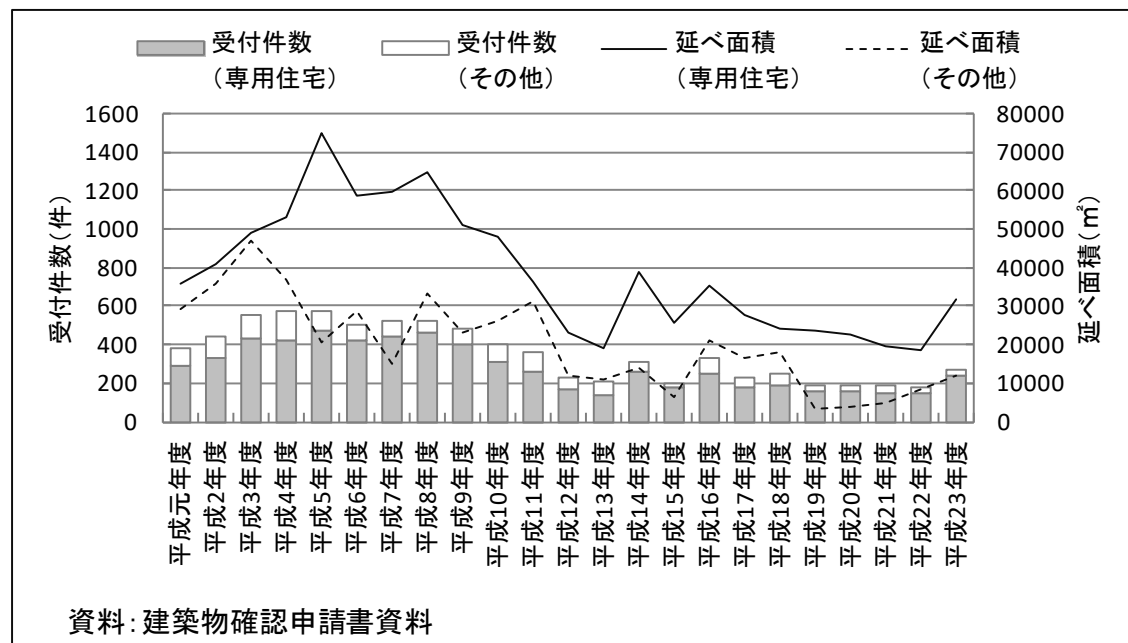
■着工新設住宅戸数



■農地転用面積・件数



■建築確認申請



⑤ 低未利用地の状況

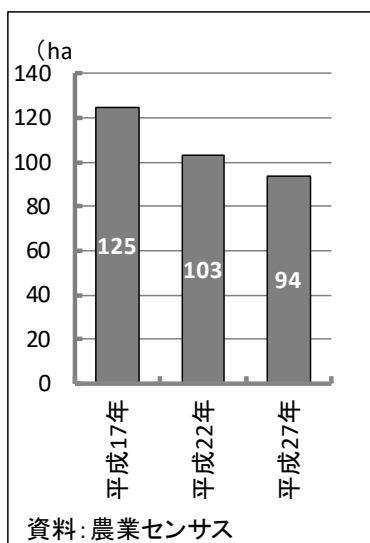
【近年の状況】

- 耕作放棄地は減少しているものの、商業集積地⁴の事業所数、売り場面積はともに減少している。また、空き家も増加傾向にあり、土地・建物の低未利用化が進んでいる。

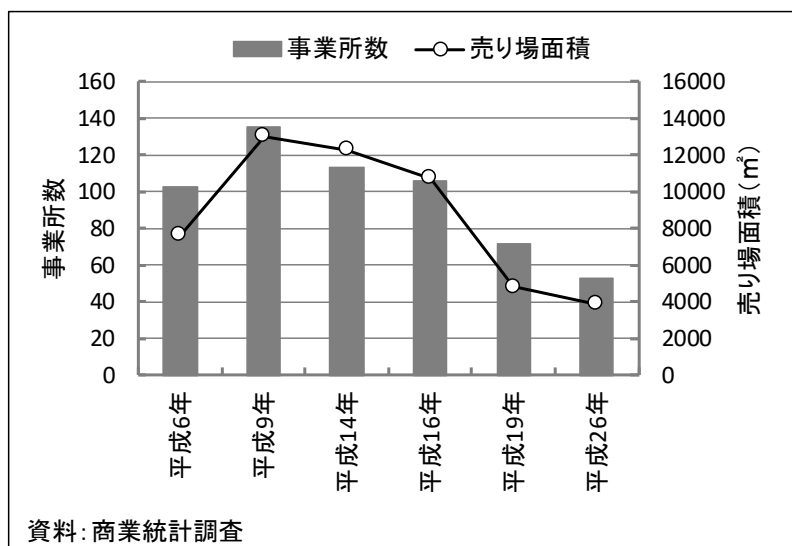
【参考：前回策定時の記載内容】

- 耕作放棄地(販売農家)は平成22年に減少しているものの、100ha規模で分布している。
- 町内の商業集積地の推移をみると、平成9年をピークに事業所数、売り場面積ともに減少している。また、空き家も増加傾向にあるなど、土地・建物の低未利用化が進んでいる。

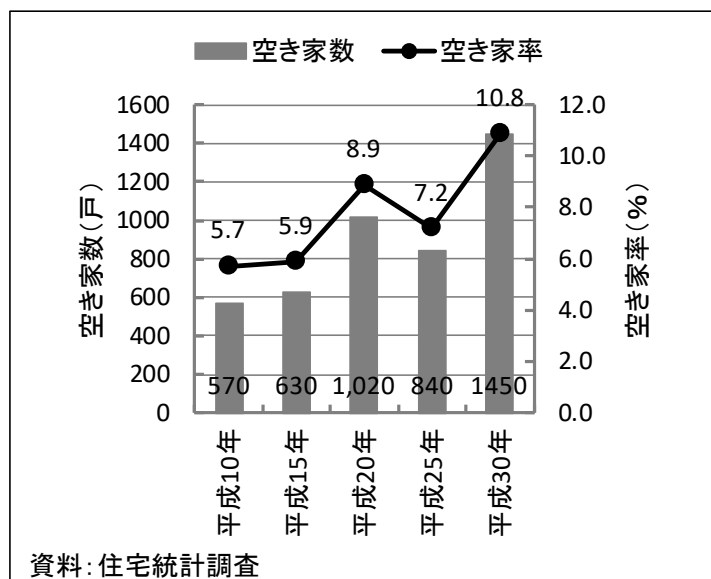
■耕作放棄地の状況



■商業集積地の商業集積の状況



■空き家の状況



⁴ 互理駅前中央通商店地区、五日町商店地区、中町商店地区

⑥ 道路・交通

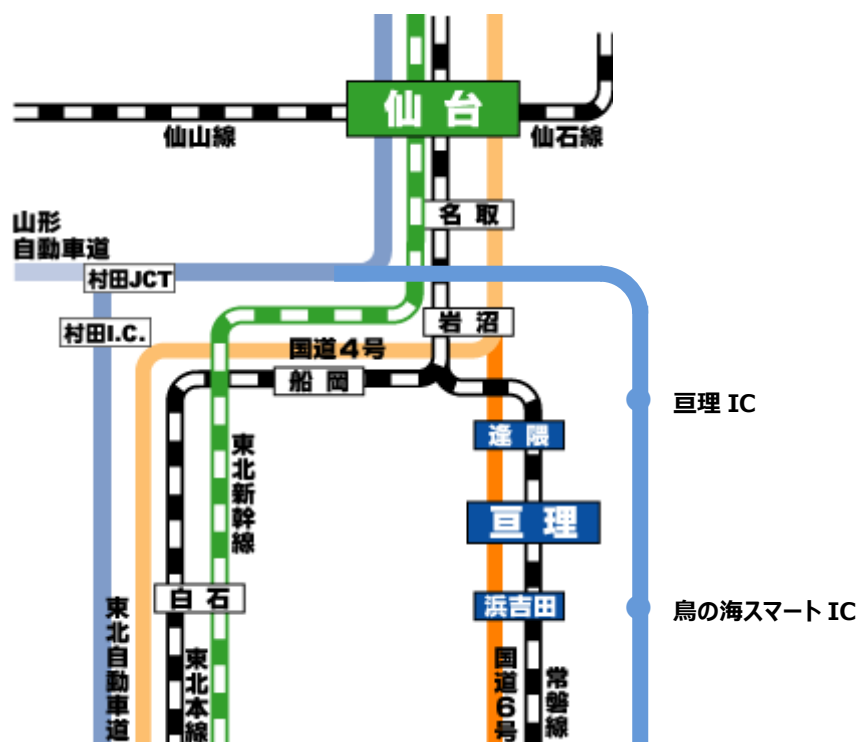
【近年の状況】

- 常磐自動車道の終点、仙台東部道路の起点となる亶理インターチェンジに加え、常磐自動車道 鳥の海スマートインターチェンジが、平成 28 年 3 月 19 日に開設された。
- 亶理町町民乗合自動車「さざんか号」に加え、平成 27 年(2015 年)10 月 19 日には町の中心部を循環する「わたりん号」の運行が開始された。なお、わたりん号は現在の循環バスの運行形式から、デマンドタクシー型の運行に変更が予定されている。(令和 2 年 8 月頃を予定。)

【参考：前回策定時の記載内容】

- 仙台市から南に約 26km に位置し、仙台には JR 常磐線で約 30 分、車(国道 6 号・4 号経由)で約 50 分の距離にある。また、仙台空港、仙台港まで 1 時間以内という立地にあり、常磐自動車道・仙台東部道路で結ばれている。
- 幹線道路としては、国道 6 号、主要地方道塩釜亶理線、亶理大河原川崎線、相馬亶理線、亶理村田線、一般県道荒浜港今泉線、吉田浜山元線がある。
- JR 常磐線の逢隈駅、亶理駅、浜吉田駅の 3 駅を持つが、1 時間の運行本数は朝夕 2 本、その他の時間帯 1 本で、1 日平均乗車人数は亶理駅で 2,000 人強、浜吉田駅で 700 人程度となっている(平成 22 年度)。バス便は亶理町町民乗合自動車「さざんか号」4 路線を運行している。
- 町道の改良率は 63.8%、舗装率は 61.8%で、県平均より整理状況は低水準である。

■亶理町の交通



出典：亶理町ホームページより作成

■巨理町町民乗合自動車「さざんか号」路線図



■ 巨理町町民乗合自動車「わたりん号」路線図



※令和2年8月よりデマンドタクシー型の運行に変更予定

■ 町道の整備状況

単位: km

区分	実延長	改良状況			路面状況		
		未改良	改良済	改良率	未舗装	舗装	舗装率
巨理町	451.8	138.2	313.6	69.4	160.1	291.7	64.6
宮城県	21,659.7	6,443.7	15,216.0	70.3	5,225.5	16,434.2	75.9

資料：平成30年度みやぎの道路（平成30年4月1日現在）